

以上

之概へ乎子ハナシヘビ。
 土強ハ賦手儲備を漸ムル不當難辨子其ハ對會ニ就テハシ賦ノテ臨難を撰
 登スナ重大ナシ一辨ナシ來スハナハ難懲ニ難成ラス。
 似得サハロイ表ニ強サハ賦々ナシモ以テ支准關將開墾ハ張手操來ニ例テ
 一式支准官返ハ一其ニ其乎一日以朝ハ自主權を回復之概ヘナ子ハイ

文書課長

支那關稅ニ關スル主要條約及協定

(關稅課調査第七號附屬)

目次

一 英清江寧條約(南京條約)第十條	一八四二年	一頁
二 英清南京追加條約(虎門寨補遺條款)	一八四三年	三
三 通過稅關之香港宣言書	一八四三年	十七
四 英清天津條約	一八五八年	十九
五 通商規則(包含之協定規則第七 (天津條約附屬通商章程))	一八五八年	四十五
六 英清通商條約(所謂マツケ條約)第八條	一九〇二年	四十九
七 日清通商航海條約及議定書	明治三十九年	六十五
八 追加日清通商航海條約	明治三十六年	八十五
九 大連海關設置及內水汽船航行ニ關スル協定	明治四十年	九十五
十 關東州租借地稅關假規則	明治四十年	百〇三
十一 支那ノ關稅ニ關スル(華府九ヶ國)條約	一九二二年	百十三

目次

一 英清江寧條約(南京條約)第十條——一八四二年……………一頁

二 英清南京追加條約(虎門寨補遺條款)——一八四三年……………三頁

三 通過稅關之香港宣言書——一八四三年……………十七頁

四 英清之津條約——一八五八年……………十九頁

則第七
章程)——一八五八年……………四十五

條約)第八條——一九〇二年……………四十九

書——明治三十九年……………六十五

明治三十六年……………八十五

行ニ關スル協定——明治四十年……………九十五

則——明治四十年……………百〇三

九ヶ国)條約——一九二二年……………百十三

訂正
全頁六百五十四頁ニ續ク

江甯條約（南京條約）

道光二十二年七月二十四日（一千八百四十二年八月三十日）南京ニ於テ署名
一千八百四三年六月二十六日香港ニ於テ批准交換

第十條 清国皇帝陛下ハ本條約第二條ニ依リ英國商人來往ノ為ニ開カルヘキ各港ニ於テ公平正規ノ輸出入関稅ノ稅率ヲ設定シ一般ニ告知スル為ニ之ヲ公布スルコトヲ約ス又清国皇帝陛下ハ將來決定ムルヘキ稅率ニ相當スル正規ノ関稅ノ前記諸港ノ何レカニ於テ一度支拂ヒタル英國商品カ清国商人ニ依リテ清帝国内地ノ何レノ市又ハ省ニモ運搬セラルレ得（キコトヲ約ス但シ右ニハ更ニ該貨物稅額ノ「バリエーション」ニ註參照）ヲ超エサル通過稅（抵代稅）ヲ支拂フ（キコトヲ約ス）

（註）第十條本條ノ通過稅率ハ本條約ニ於テハ之ヲ定メズシテ翌年六月二十六日ノ香港宣言書（次掲參照）ニ於テ右稅率ハ當時ノ現行課稅額ヲ超過ス（カラサルセノナルコトヲ定メタリ）

南京通商條約(虎門寨詳遺條款)

一千八百四十二年十月八日道光三十二年八月十五日虎門寨
= 於此處(註)

大不列顛愛蘭聯合王國女皇陛下、清國皇帝陛下、開、永久和
親條約南京=於此締結セラレ基督紀元千八百四十二年八月十五日即
清曆道光三十二年七月二十四日英倫ゴトウオリニ辨ニ於テ署名調
印セラレ大不列顛愛蘭國女皇陛下及清國皇帝陛下各自、親
署名鈐璽ヲ經ク、右永久平和^條約、批准書ハ千八百四十三年六月二十六日
即、清曆道光三十二年五月二十九日香港ニ於テ正當ニ交換セラレタルニ
因リ

又右條約ニ於テ他ノ諸事項、規定スルト同時ニ廣東、福州府、厦
門、寧波及上海、五港ヲ開放シ、英國商人、來往居住、許スル
註右諸港ニ於ケル輸出入稅其、他、諸稅、何公平正規、稅率ヲ定
ム(ヤコトヲ規定シタルニ因リ)

又右永久和親條約ニ関連スル詳細、諸事項ハ爾未同締約
 國全權委員間ニ商議考慮シタル上前記税率其他ノ細目ニ関
 シ今ヤ之ヲ審議及整理ヲ完了シテ雙方ノ合意ヲ經クベシ因リ
 此等ノ事項ヲ追加條款ノ形式ヲ以テ取正理記録スルコトニ決定セラレタ
 リ追加條約ノ條項ハ原永久和親條約中ニ挿入セラレタルト同一ノ
 拘束力ヲ有シ且之ト同一ノ效力ヲモトス

第一條 各全權委員署名調印ノ下ニ本條約ニ添附シタル輸
 出入稅ノ税率ハ爾今廣東、福州府、廈門、寧波及上海ノ五港ニ
 於テ之ヲ施リスベシ

第二條 各全權委員署名調印ノ下ニ本條約ニ添附シタル通商一
 般章程ハ爾今前記之港ニ於テ之ヲ施リスベシ

第三條 通商一般章程三款ニ基キ課セラレタル罰金又ハ執行
 セラレタル沒收ハ總テ清國政府ニ歸屬シ且清國政府ノ公共事

稅ニ充用セラルベシ

第四條 廣東、福州、廈門、寧波及上海ノ五港開放セララル
 ノ後ハ英國商人ハ此等五港ニ於テノミ貿易スルコトヲ許サレシ右ノ
 者ハ他ノ一ツノ港又ハ場所ニ赴クヘカラス又清國人母モ他ノ一ツノ港
 又ハ場所ニ於テ之ト貿易スルコトヲ許サレシモトス英國商船ニシテ
 本約款又同一趣旨ヲ以テ英國全權委員ノ發スル告示ニ違反
 シテ他ノ港又ハ場所ニ赴クコトキハ清國政府ノ官吏ハ當該船舶
 及載貨ヲ差押沒收スルコトヲ得シ又清國人民ニシテ穩密ニ他ノ
 港又ハ場所ニ於テ英國商人ト貿易スルコトヲ發覺シタルトキハ該
 規ノ定ムル所ニ從ヒ清國政府之ヲ處罰スベシ

第五條 英清兩國商人間ノ商取引及債務關係ノ事項ヲ規
 定セル通商一般章程第四款ハ當事者適用セラレヘキコト明白

ナルモノトス

第六條 開カレヘキ五港ニ居住スル英國商人其他ノ者ハ
 商業上ノ如何ナルノ実ヲ以テスモ地方官憲カ英國領事ト協議
 ノ上指定スヘキ一定短距離ノ地域ヲ超エテ周圍ノ地方ニ入込ケカラ
 サルモトス水夫及船員ハ領事ノ地方官ニ通告ノ上定ルヘキ權力
 及規則ノ下ニ於テ上陸スルコトヲ許サルヘキ本條ノ規定ヲ犯シテ周
 圍ノ地方ヲ彷徨スル者ハ之ヲ逮捕シテ適當ナル處ニ罰ヲ受ケシムル為
 英國領事ニ引渡スルシ

第七條 永久和親條約ハ英國臣民及其ノ家族ヲシテ廣東、
 福州、廈門、寧波及上海ノ市所ニ於テ妨礙スル拘束ヲ受クベキコト
 ナク居住セシムルコトヲ規定セリ故ニ左ノ如ク決定ス即チ地方官ハ領
 事ニ通知シテ土地家屋（其ノ借賃又ハ代價ハ何レノ側ニ對シテモ可
 酷アラサシキ様人民間ニ行ハルル罰令ニ準シテ正當衡平ニ按排セラル
 ンキモトス）ヲ用意シ置クヘシ建築又ハ賃與セラレタル家屋ノ數ハ年々

領事ヨリ石地方官ニ之ヲ報告スルコト地方官ハ右報告ヲ各自ノ機
 智ニ稟申スヘシ但シ家屋ノ數ハ商人ノ來往ニ準シテ多寡アルヘキ
 ニ鑑ミ之ヲ限定スルコトヲ得ス

第八條 清國皇帝陛下ハ夫々ノ臣民又ハ人民カ從來廣東ニ於テ
 貿易ニ從事セル一切ノ外國ニ對シ英國人ト同一條件ヲ以テ福州、厦
 門、寧波及上海、四港ニ於テ貿易ノ目的ヲ以テ來往スル特權ヲ與ヘ
 與テ之ニ因リ更ニ左ノコトヲ約ス即チ皇帝カ爾今事由ノ如何ヲ
 問ハス右諸外國ノ臣民又ハ人民ノ何レニ對シ特權又ハ免除ヲ更
 ニ增加シテ與スルトキハ英國臣民モ同一ノ特權及免除ヲ均霑享
 有スヘキ尤モ右ニ基ク要求スル請願亦ハ其ノ必要ナキ場合ハ之ヲ提
 起スヘカヲモソトス

第九條 清國ノ不逞士民ニテ其ノ政府ニ對シ犯罪ヲ犯シ香港又ハ英
 國軍艦若ハ英國商船ニ逃竄シタル者英國官吏ニ發見セラレタル
 トキハ直ニ密問所罰、為ニ清國官吏ニ引渡サレンヌ又英國官吏

カ之ヲ発見スルニ先テ清國官吏カ犯罪人ノ逃亡場ヲ確知シ又ハ嫌疑
 ヲ有シタルトキハ相當ナル英國官吏ニ對シ該犯罪人ヲ嚴重ニ搜索逮
 捕シ且ツ其ノ罪ノ證明又ハ自白ヨリ引渡サハコトヲ照會スヘシ同様ニ又
 兵エ水兵其ノ他ノ階級ハ出身地ノ如何ヲ論セス英帝國臣民タ
 ルニシテ原因又ハ口實ノ如何ヲ問ハス清國領土内ニ逃走シ奔又ハ
 逃亡シタルトキハ清國官吏之ヲ逮捕監禁シテ最寄リ英國領事官
 憲其ノ他ノ政府官憲ニ引渡スヘク如何ニ場合ニ於テモ隱匿スル底
 護ヲ許容スヘカラサルニトス

第十條 英國商人ノ為ニ開カレヘキ之港ニハ夫々英國巡洋艦一雙ヲ配置シ
 英國商船來往貿易尚善良ナル秩序及訓練ヲ維持セシム且英帝
 國臣民ニ對スル領事ノ必要ナル權カヲ援助セシムシ右軍艦ノ乗組員
 ハ當該軍艦指揮官ノ慎重ナル拘束ヲ受ケ既ニ商船ノ水夫ニ對シ
 テ規定セラレタル上陸及内地行徑ニ関スル諸規則ニ服従スヘシ右軍
 艦ノ交替ニ必要ナルトキハ軍艦増加ノ外見ニ因リ人民間ノ誤解

ヲ来スルヲ避ケルカ為其ノ都度右ノ旨ヲ英國領事又ハ英國通商
 監督官ヨリ事情ノ許ス限リ清國地方官ニ通知スヘシ又清國巡
 洋艦ハ交替艦ニ對シ妨礙ヲ加フヘラス且英國軍艦ノ如何ナル形式ニ
 於テモ通商セサルモノニ鑑ミ交替艦ハ通商一般ノ章程ニ定ムル港
 其ノ他ノ諸規則ノ適用ヲ受ケザルモノトス

第十一條 永久和親條約ニ於テ規定セル金額全部ノ支拂ヲア
 シタルトキハ該條約規定ノ通舟山及右塔嶼ノ駐屯軍ハ撤去セラレ
 ハシ英國全權委員ハ明白ニ且自ラ進ミテ右ノコトヲ約ス即チ一印ノ住
 家倉庫兵官其ノ他ノ建築物モテ英國ノ軍隊及人民ノ占領シ
 又ハ一時的ニ建築若ハ修復シタルモノハ駐屯軍撤去ノ際其ノ儘清國官
 憲ニ之ヲ引渡シテ以テ右ノ諸兵ニ付還延ノ口實ヲ生セシム又ハ些少タリトモ
 論議若ハ紛争ヲ惹起セシムル虞ヲ防止スヘシ

第十二條 今マ諸稅ノ公平正理ナル稅率ノ設定ヲ見ルニ至ルマテ
 從來英清兩國商人間ニ行ハタル密貿易手段(多クノ場合ニ於テ

清國税関吏公然黙許及通謀ニ依リテ行ハレタルモノノ全然終止
 セバコトヲ希望ス英國全權委員ハ英國商人ニ對シ右事項ニ関スル斷
 呼タル若キヲ既ニ發布シタルノミナラス更ニ各領事ニ訓令シテ其ノ常
 務ノ下ニ通商貿易ヲ管ル英國臣民タル各人ノ行為ヲ嚴重ニ監
 視シ且煥密ニ調査マシムトス領事ハ密貿易ノ實際ノ事例ニシテ自
 己ノ覺知セルモノアルトキハ直ニ該事實ヲ清國官憲ニ通知スヘク其ノ
 價格又ハ性質ノ如何ヲ問ハス右密貿易ニ供セラレトセル貨物ヲ
 悉ク差押ヘ沒收スルノ措置ヲ執ルヘシ又適當ト認ムトキハ密貿易
 貨物ヲ陸揚シタル船舶ニ對シ爾後ノ貿易ヲ禁止シ且同船舶ノ計算
 ノ清算勸告ヲアリタル後直ニ出航セシムコトヲ得ヘシ同時ニ清國政
 府ノ官吏ハ密貿易ニ関與セルコト發覺セル清國商人及税関吏ニ對
 シテ其ノ適當ト認ムル措置ヲ執ルヘシ

第十三條 凡ソ清國土民タル否トヲ問ハス廣東、福州府、厦門、寧波
 及上海、五港ノ一ヨリ貨物ヲ賣却スルハ消費ノ為ニ香港ヘ輸送セムト欲

スル者ハ其ノ貨物ニ對スル課税ヲ支拂ヒ且前記諸港ニ於テ清國税
 関ヲ通行券即チ出港免狀ヲ得タル後ハ充分且完全ナル自由ヲ以
 テ右ノ輸送ヲ為ストヲ得ヘシ清國土民ニシテ貨物購買ノ為ニ香港ニ赴
 カルト欲スル者ハ之ヲ為自由且完全ナル許可ヲ受クコトヲ得ヘシ又其ノ
 購買品搬去ノ為清國船舶ヲ要ストキハ右ノ右ハ香港ニ向テ出港セシ
 トスル港ノ税関ニ於テ該船舶ヲ為ニ通行券即チ出港免狀ヲ得ルヘカラ
 ス尚右通行券ハ其ノ目的トスル航海ヲ終了シタル際常ニ之ヲ清國政
 府ノ官吏ニ返還スヘキモノトス

第十四條 香港ニ於テ一カノ英國官吏ヲ任命シ貨物賣買ノ為ニ香港ニ
 来ル一印ノ清國船舶ノ税関證書及通行券ヲ檢閲スルコトヲ以テ其ノ職
 務ノ一部ヲラシムヘシ右官吏ニシテ清國商船カ五港ノ一ヨリ發給セル税関
 證書及通行券ヲ有セザレトキ何時ソリトモ發見シタルトキハ該船舶ハ
 無免許船舶トシテ密貿易船舶ト認メラレ清國官憲ニ事情ヲ報告セ
 ナル間ハ貿易ヲ許サレザルモノトス本約定ニ依リテ海賊行為及違法取

引ヲ有効ニ防止セムコトヲ希望ス

第十五条 清國工民ニシテ通商ノ為香港ニ赴キ其ノ地ニテ負債ヲ為シタル時
ハ右負債ノ償還ハ在香港英國裁判所ニ於テ之ヲ判決スヘキモノトス但
シ清國人債務者カ踪跡ヲ晦シタルトキ清國銀土内ニ土地其ノ他ノ財產
ヲ有スルコト明ナル場合ニハ通商一般章程第四款ニ定ムル規則ヲ適用ス
ヘク清國官吏ハ英國總督ノ要求ニ依リ之ト商議シテ能ク限り當
事有關ニ是非ヲ明ニスル為盡カスル義務ヲ負フモノトス 同一ノ原則ニ基
キ英國人ニシテ香港ノ何レカニ於テ負債ヲ為シ香港ニ逃亡シタルトキハ英
國官吏ハ負債ノ陳情及充分ノ證明ヲ添附セル清國政府官吏
ヨリノ要求ニ依テ其ノ請求ニ照査ヲ開始スル債務マント確定シタ
ルトキハ該不履行者ノ債務者ヲシテ財產ノ許ニ限り清算セシムルシ
第十七條 五港ニ於ケル稅關更ハ香港ニ向テ船舶ニ許與セル通行券
ト載貨ノ種類トノ月表ヲ作り之ヲ廣東ニ報告スヘキモノトシ且右ノ
報告表ノ寫ヲ一括シテ一表ヲ作り毎月一回之ヲ香港ニ於ケル其ノ勸英

國官吏ニ通報スル英國官吏モ亦香港總督ノ請願而シテ其ノ
貨ノ種類トノ記載セル月表ヲ廣東ニ於ケル清國官吏ニ通報スル廣東
官吏ハ五港ノ稅關ニ之ヲ申報スルハ此等ノ措置ト注意トニ依リテ
通行券ニ假托セル一叩ノ密貿易及違法貿易ヲ避ケムトスニ在リ

第十七條 (英國小形船ニ關スル附屬條規) 英國人ニ屬スル各種ノ小
形船舶ヲ「スクーナー」、「コック」、「ロータ」等ハ從來噸稅ヲ課スルコトナク
リシロ香港及廣東間並廣東及澳門ヲ往來スル此等ノ種類ノ小形船
ニ關シテ結ニテ如ク定ムル即チ此等小形船ニシテ單一ノ旅客、郵便物
及小荷物ヲ運搬スルニ於テハ從來ノ噸稅ヲ支拂フヲ要セザレトモ此等
小形船ニシテ課稅セルモノ物件ノ搬送トナハ如何ノ少量ナル場合ト雖
原則上充分ノ噸稅ヲ支拂ハサルハ尤モ此等ノ小形船ハ外國貿易
ニ從事スル大船トハ異リ絶エズ來シ毎月數回ノ航行ヲ為シ又入港ノ際
若シハ投錨スル外國船舶ノ如クアラス比等小形船ヲ大形ノ外國船ト同
様ニ取扱フニ於テハ負擔ノ不衡平ヲ來スル故ニ爾今此等小形船ノ最

小形船ハ七丁五噸トシ最大ナルモノモ百五十噸ヲ超スルコトナラサルモトス此等
 小形船カ入港シ又ハ貨物ヲ載セテ出港スルトキハ一登錄噸ニ付一錢(註)ノ割
 合ヲ以テ噸稅ヲ支拂フヘシセテ五噸ニ達セザルトキハ七十五噸ト認メラレ同
 一噸稅ヲ課セラルウ又百五十噸ヲ超スルトキハ大形ノ外國船ト同様
 ニ課メラレ一登錄噸ニ付五錢ノ割合ヲ以テ噸稅ヲ課マラルシ福州等ノ
 他ノ港ニハ此ノ種ノ交通及此ノ種ノ小形船ヲ有セザルヲ以テ右諸港ニ関シ
 三丁ノ何等取極ヲ設クハ要ナラズ
 小形船ヲ律スヘキ規則左ノ如シ

一英國ノ「コスターナー」、「コッター」、「コロチ」等ハ皆英清西文ノ出航狀即
 于關稅證書ヲ有スヘキ右證書ハ貿易監督官長ノ署名捺印ノ下ニ
 其ノ船ノ形狀載貨量等ヲ記載シタルモノナリシ
 ニ「コスターナー」、「コロチ」其ノ他ノ小形船ハ均テ大船ニ於ケルト同様ニ虎
 門ニ届出ヲ為スヘシ又廣東ニ到著セル際出港狀即關稅證書ヲ英國
 領事ニ呈出スヘク領事ハ又該船船ノ為前貨陸揚ノ許可ヲ廣東

稅關長ヨリ受クヘシ右許可ナクシテ通商一般章程第三款ニ
 於テ定メタル過料規定ニ照シ貨物ヲ陸揚スルコトヲ得ザルモノトス
 三前内ノ貨物ヲ陸揚シ且外部ヨリノ貨物ヲ載シシ兩者ニ對スル關
 稅ノ手續及支拂ヲ了シタリトキハ領事ハ關稅證書即チ出航
 狀ヲ返付シ出港ヲ許可スヘシ

(註) 一錢 (Pence) 二兩 (Lion) ノ十分ノ一ニ相當ス

原平和條約ニ附屬セシムル本追加條約ハ十六箇條及小形船ニ
 關スル附屬條項一箇條ヨリ成リ茲ニ其ノ作成ヲ了シ其ノ附屬物ト
 合セテ小冊子ニ通ト為シ英清兩國全權委員正式ニ之ニ署名
 調印シ先ツ互ニ各ニ送テ取リ直ニ本條約ノ規定ヲ實施シ得ルカ
 為ニ之ヲ交換ス同時ニ兩國全權委員其ノ二通ヲ各自國ノ主權
 者ニ致スヘキニ兩國距離ノ異ニスルヲ以テ一方ノ主權者ノ意ニ他
 ノ一方ノ主權者ノ意ニ送テ以前ニ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ故ニ次ノ如
 ク協定ス即チ殊筆ヲ以テ記セル兩國皇太子ノ允許ヲ受ケ

シタルトキハ銀差宿ハ該批准書ヲ廣東按察黃氏ニ交付スル氏
 ハ英國全權委員ノ指定スル場所ニ赴キ之ヲ英國全權委員ニ
 引渡シ該全權委員之ヲ受領保持スヘシ其ノ後ニ至リ同様ニ本
 條約ヲ允許シ確認シタル英國主權者ノ親書セル批准書香港ニ達シ
 タルトキハ英國全權委員ハ特ニ吏員ヲ指名シテ廣東ニ派遣シ右
 親書ヲ包含スル批准書ヲ黃氏ニ交付スヘシ氏ハ之ヲ兩國ニ對スル
 永久ノ規定及指導トシテ且兩國ノ和親友好ノ敬肅ナル確
 定シテ清國全權委員ニ交付スヘシ

千八百四十三年十月五日即清曆道光二十三年八月十五日虎門
 寨ニ於テ署名調印ヲ了ス

ヘンリー、ポッターンジャー (印)
 春 英 (印)

(註)本追加條約ハ千八百五十八年天津條約第一條ノ規定ニ
 依リ廢棄セラレタリ

通過税ニ関スル宣言書

千八百四十三年六月十六日香港ニ於テ署名

大不列顛愛蘭聯合國皇帝陛下ト清國皇帝陛下トノ間ニ千八百四
 十三年八月十九日即チ道光二十三年七月二十四日南京ニ於テ英艦「コーンウォ
 ヲ」ニ艦上ニ締結署名セル條約ノ第十條ニ依リハ清國皇帝陛下ハ同
 條約第二條ニ基キ英國臣民未任ノ為開放セラルル諸港ニ於テ公平正
 規ノ開港ヲ設定シ之カ税率ヲ一般ニ告知スル為公布宣示スヘキ事トモ規定セ
 ラレ且又英國商品ニシテ後ニ定ムヘキ税率ニ相當スル正規ノ開港ヲ前記
 諸港ノ何レカニ於テ一度細付シタルモノハ更ニ通過税(松火税)ヲ支拂ヒタル
 後清國商人ニ依リ清帝国内地ノ何レノ省又ハ市ニ運搬セラレ得ル事トモ
 規定セラレ居ルニ因リ又右賦課スヘキ通過税ノ税率ハ同條約ニ依リテハ
 定メラレザリニ因リ

17. 之カ為下名英國皇帝陛下及清國皇帝陛下ノ全權委員ハ茲ニ同條約

批准書交換ノ手續ヲ履ムニ當リ右英國商品ニ對シ通過稅トシテ賦課スヘキ稅ノ額ハ輕少ナル現在ノ稅率ヲ超過スヘカラサルモノナルコトヲ約束シ且聲明ス同條約ノ批准書交換ハ本宣言書及其ノ中ニ含マルル規定ヲ條件トシテ之ヲ爲スモノトス

右證據トシテ右全權委員ハ本宣言書ニ署名シ之ニ調印シタリ

千八百四十三年六月二十日即チ道光二十三年五月二十九日香港ニ於テ本書ヲ作成ス

ヘンリー・ポットキンジャー

著 英

(備考)本宣言書内容ハ千八百五十八年六月二十日ノ條約ノ第二十條ニ依リ修正セラレタリ尚千八百七十九年九月十三日ノ條約第三款ハ千八百八十五年七月十日ノ追加條約及千九百零三年九月五日ノ條約第八條ヲ參照スヘシ

英清天津條約

千八百五十八年六月廿六日咸豐八年五月十六日天津ニ於テ署名

千八百六十年十月二十四日北京ニ於テ批准交換 (訳文ハ英文ニ據ル)

大不列顛愛蘭聯合王国女皇陛下及清国皇帝陛下ハ兩國間ニ存スル誤解ヲ去リ將來兩國ノ關係ヲ一層満足ナル基礎ニ置カラルヲ希望シテ兩國間ノ現行條約ヲ修正改善スルニ決シ之カ爲

大不列顛愛蘭女皇陛下ハ

聯合王国貴族最古最貴「シッスル」勳位伯爵「エルジン」エント、ギンカト、

シレヲ

清国皇帝陛下ハ

東閣大學士正白旗滿洲都統總理刑部事務桂良

經筵講官吏部尚書鑲藍旗漢軍都統稽查會同四譯官花沙納

夫々其ノ全權委員ニ任命セリ

各全權委員ハ互ニ全權委任状ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認めタル後左ノ諸條ヲ協定締結セリ

第一條 一千八百五十二年八月九日江寧(南京)ニ於テ署名セル兩國間ノ和親條約ハ茲ニ更新確認セラルルモノトス追加條約及通商一般章程ハ之ヲ修正改善シ其ノ條項ノ要領ヲ本條約中ニ網羅シタルヲ以テ前記追加條約及通商一般章程ハ茲ニ之ヲ廢棄ス

第二條 大不列顛女皇陛下及清國皇帝陛下ハ將來ノ調和ヲ一層良好ニ保シ之ヲ和親大國ノ一般慣行ニ從ヒ女皇陛下ノ適宜ト認レルトキハ大使公使其他ノ外交官ヲ北京朝廷ニ任命シ得ヘク又清國皇帝陛下モ同様ニ其ノ適宜ト認レルトキハ大使公使其他ノ外交官ヲ陛下ニ任命シ得ヘキトス

第三條 清國皇帝陛下ハ大不列顛女皇陛下ノ任命セル大使公使其他

ノ外交官カ英國政府ノ意思ニ從ヒ其ノ家族及從者ト共ニ首府ニ常住シ又ハ隨時首府ニ來住スヘキトス又右ノ者ハ清國ノ君主ト同様ノ地位ニアル獨立國ノ君主ヲ代表スルモノナルヲ以テ其ノ尊嚴ヲ毀損スルノ如キ儀式ヲ行ハシマラルトナカレシ又他方ニ於テ右ノ者ハ女皇陛下ノ大使公使又ハ外交官カ獨立且同様ナル歐洲諸國ノ君主ニ對シテ行フト同形式ノ儀禮ヲ清國皇帝陛下ニ致スヘシ

尚女皇陛下ノ政府ハ女皇陛下ノ僕節ヲ收容スル爲北京ニ建物敷地ヲ取得シ又ハ家屋ヲ借入ルルトテ得ヘク清國政府ハ之ヲ援助スヘシ女皇陛下ノ代表者ハ自己ノ僕婢從者ヲ選拔スルノ自由ヲ有シ其ノ僕婢從者ハ如何ナル障礙ヲ受ケサルヘシ

女皇陛下ノ代表者又ハ其ノ家族從者ニ對シ動作又ハ言語ニ於テ不敬又ハ暴行ノ行爲アリタル者ハ何人ト雖之ヲ嚴重ニ處罰スヘシ

第四條 女皇陛下ノ代表者ノ自由行動ニ對シ所害又ハ故障ヲ加フヘカラス

又右ノ者及其ノ一行中ノ何人モ隨意ニ來往旅行シ得ヘシ如ク右ノ者ハ其ノ欲
 所ニ從テ海岸ノ何レノ地点ヨリテモ其ノ信書ヲ收受スヘキ充分ナル自由ヲ
 有スヘク且該書狀及附屬物件ハ之ヲ神聖不可侵トス右ノ者ハ其ノ書狀
 傳送ノ為特別傳達使ヲ用ルルコトヲ得ヘク該傳達使ハ其ノ旅行ニ付清
 國政府ノ為公信ヲ送達スルニ使用セラルル者ト同様ニ保護及便宜ヲ與ヘラ
 ルヘシ又一般ニ右ノ者ハ泰西諸國ノ慣例又ハ承認ニ依リ同階級ノ官吏ニ
 與ヘラルト同一ノ特權ヲ享有スヘシ

大不列顛國ノ外交使節ニ關スル一切ノ經費ハ英國政府ノ負担タルヘシ

第五條 清國皇帝陛下ハ女皇陛下ノ大使、其他ノ外交官ト全然同様
 ノ基礎ニ於テ迎接又ハ書面ニ依リ相共ニ事務ヲ處理セシムヘキ大官ヲ内閣
 大臣中又ハ尚書中ノ一員ヨリ任命スルコトヲ約ス

第六條 大不列顛國女皇陛下ハ女皇陛下ノ朝廷ニ派遣セシタル清國皇
 帝ノ大使、公使又ハ外交官カ其版圖内ニ於テ右確保セラレタル特權

ヲ享有スヘキコトヲ約ス

第七條 女皇陛下ハ清國皇帝ノ版圖内ニ一名又ハ數名ノ領事ヲ任命スルコ
 トヲ得右領事ハ女皇陛下カ英國通商上必要ト認ムル清國開港場ノ
 何レタリトスニ駐在スルノ自由ヲ有スヘシ右ノ者ハ清國官憲ヨリ相當
 ノ敬意ヲ以テ待遇セラレヘク且最惠國領事官ト同一ノ特權及免除ヲ
 享有スヘシ

領事及領事代理タル副領事ハ道台ト同様タルク副領事、副領事、代
 理及通譯官ハ知府ト同様タルヘシ右ノ者ハ公務上ノ便宜ニ應ジ全然同等
 ノ基礎ニ於テ面接又ハ書面ニ依リ此等官吏ノ官署ト交通スルコトヲ得ヘシ

第八條 基督教ハ新教徒又ハ羅馬加特力教徒ノ何レノ信仰スル所タルヲ問ハス
 共ニ德義ノ實行ヲ奨メ已ノ欲ニ於テ他ニ施スヘキヲ人ニ教フルモノナリ從テ其ノ宣
 教者又ハ信仰者ハ清國官憲ノ保護ヲ受ケテ權利ヲ有ス又平穩ニ其ノ
 職令ニ從事シ法律ニ違反セサル者ハ迫害又ハ干渉ヲ受ケヘキモノ非ス

第九條 英國臣民ハ娛樂ノ爲又ハ商業上ノ目的ノ爲英國領事ノ發給シ
且地方官憲ノ副署セル旅券ヲ以テ内地ノ何處ニモ旅行スルコトヲ許
容セラルル此等ノ旅券ハ請求スルトキハ通過セル地方ニ於テ横關ヲ受クル爲提
出スルコトヲ要ス旅券ニ反則ノ案キ場合ハ所轄人ハ進行ヲ許サルハ
又其ノ荷物又ハ商品ノ運搬ノ爲人夫ヲ僱入レ又ハ船舶ヲ借入ルルニ對シ何
等ノ故障ヲ加フルコトナカルヘシ

旅券ニシテ旅券ナキカ又ハ法律違反ノ案アリタルトキハ處罰ノ爲之ヲ
最寄領事ニ引渡スヘシ但シ必要ナル拘束以上ノ處分ヲ受ケシムヘカラス
開港場ヨリ里程百里ヲ超テ且期間五日ヲ過キサル小旅行ヲ爲ス者ニ
付テハ旅券ヲ要セズ

本條ノ規定ハ船員ニ適用セス船員ニ對スル適宜ナル拘束ニ付テハ領事及
地方官憲ニ依リ之ノ規則ヲ設クヘシ

政府敵對者ニ依リ擾亂セラレタル南京其他ノ都市ニ付テハ其ノ恢復セラ

ルル迄ハ旅券ヲ交付セス

第十條 英國商船ハ長江(揚子江)ニ於テ貿易ヲ爲スコトヲ得ヘシ尤モ長
江一帯ハ匪徒ノ爲ニ擾亂セラレ一港モ現ニ貿易ノ爲ニ開放ヨラレル
モノナシ但シ鎮江ハ本條約署名ノ日ヨリ一年内ニ開放セラルヘキコトス
平和ノ恢復セラルルヤ否ヤ英國船舶ハ又漢口ノ如キ上流ノ港ニ於テ貿易
場スルコトヲ許サルヘシ但シ其ノ港ノ數ハ三箇所ヲ超エサルヘク又英國公使
ノ清國內閣大學士ト協議シ上貨物揚卸ノ港タルコトヲ定メタルモノトス

第十一條 江甯(南京)條約ニ於テ開放セラルル廣東、厦門、福州、寧
波及上海ノ市邑ニ加フルニ英國臣民ハ牛莊、登州、台灣、潮州(汕頭)
及瓊州(海南)、市邑及港ニ未往スルコトヲ得(レ右ノ者ハ隨意ニ何
人トモ交易シ又其ノ船舶ト貨物トヲ以テ自由ニ未往スルコトヲ許容セラ
ル

右ノ者ハ前記市邑及港ニ於テモ已ニ貿易ノ爲開放セラレタル港ニ於テ

享有スル同一ノ特權、利益及免除ヲ享有スヘク其中ニ居住ノ權利、
家屋買入又ハ賃借ノ權利、敷地借入ノ權利並テ葬院、病院及墓地
建設ノ特權ヲ含ムトス

第十一條 港其他ノ場所ニ於テ家屋、倉庫并院、病院又ハ埋葬地ヲ
建築スル開設セムト欲スル英國臣民ハ人民間ニ行ハル割合ニ從ヒ衝
平ニ且何レノ側ニ對シテ又苛酷ト爲ラサル様所要土地又ハ建物ニ付テノ
契約ヲ爲スヘシ

第十二條 清國政府ハ英國臣民カ法律上ノ規定ニ從ヒ清國臣民ヲ使役スルニ
對シ何等ノ制限ヲ加ヘサルヘシ

第十四條 英國臣民ハ貨物又ハ旅客ノ運送ノ爲隨意ノ小船ヲ借入ルルコトヲ
得此舟ノ小船ニ支拂フヘキ金額ハ當時者間ニテ之ヲ決定スヘク清國
政府ノ干渉ヲ受ケサルトス此舟ノ小船ノ數ハ制限セラレサルヘク又小船又
ハ荷物運搬ノ人夫ニ關スル特權ハ何者ニ對シテ又許與セラレサルヘシ右

ノ者等ノ間ニ密輸入ノ行ハルトスハ犯罪者ハ勿論法律ニ從ヒテ處罰セ
ラルヘシ

第十五條 英國臣民間ニ起リタル或種上又ハ身分上ノ權利ニ關スル一切ノ問
題ハ英國官憲ノ裁判管轄ニ屬スヘシ

第十六條 英國臣民ニ對シ刑法上ノ罪ヲ犯シタル清國臣民ハ清國法律ニ
從ヒ清國官憲之ヲ逮捕處罰スヘシ

清國ニ於テ罪ヲ犯シタル英國臣民ハ大不列顛國法律ニ從ヒ領事其他當
該權限ヲ有スル官吏之ヲ審問處罰スヘシ

第十七條 清國人ヲ訴フヘキ理由ヲ有スル英國臣民ハ領事館ニ赴キテ其ノ被害
ヲ陳述スヘシ領事ハ事件ニ真相ヲ訊問シ和解ノ處置ヲ取ル様盡力ス
ヘシ同様ニ清國人カ英國臣民ヲ訴フヘキ理由ヲ有スル場合ニ於テ又領事ハ
等々其ノ訴ヲ聞キ和解セシムル様力ムヘシ爭論カ領事之ヲ和解セシム
ル能ハサル如キ性質ノモノナルトスハ領事ハ兩國官吏ノ援助ヲ請ヒ相共ニ

事件ノ真相ヲ調査シ衛平ニ之ヲ決スヘシ

第十八條 清国官憲ハ英国臣民ノ身體及財產ヲ侮辱又ハ暴行ヲ被リタル場合常ニ之ヲ充分ナル保護ヲ與フヘシ放火又ハ盜難ノ場合ニハ地方官ハ直ニ盜難物件ノ回復、贖擄ノ鎮定及犯罪者ノ逮捕ニ必要ナル處置ヲ執ルヘク犯罪者ハ法律ニ從テ之ヲ處罰スヘシ

第十九條 英国商船ヲ清国領水内ニアル際盜賊又ハ海賊ニ掠奪セラレタル場合ニ於テハ清国官憲ハ該盜賊又ハ海賊ヲ逮捕處罰シ且盜難物件ヲ回復スル為一切ノ手段ヲ盡テノ義務ヲ負フヘク回復セラレタル盜難物件ハ所
有者ニ返還スル為之ヲ領事ニ引渡スヘシ

第二十條 英国船舶カ清国海岸ニ於テ難波若ハ坐礁シ又ハ清国皇帝版圖内ノ港ニ避難スルノ已ムヲ得サルニ至レル場合ハ何時タリトモ清国官憲ハ該事實ヲ知得ス否ヤ直ニ其ノ救助安全ノ方法ヲ執ルヘシ船中ノ人々ハ懇切ナル取扱ヲ受クヘキモノトシ且必要アルトキハ最寄領事所在地ヘノ

輸送ノ便宜ヲ供與セラルヘシ

第二十一條 清国臣民タル犯罪人ノ香港又ハ香港碇泊ノ英国船舶中ニ逃レタル者ハ右犯罪人ハ清国官憲ニ適當ナル請求ニ基キテ搜索セラルヘク且其ノ罪ノ證明ヲ得タル上之ヲ引渡スヘシ

同様ニ清国人タル犯罪人カ開港場ニ於ケル英国臣民ノ家屋又ハ船舶中ニ逃レシタルトキハ右犯罪人ハ右隱蔽セラルルコトナク英國領事ニ對シテ清国官憲ニ適當ナル請求ニ基キテ之ヲ引渡スヘシ

第二十二條 清国人ニシテ英國臣民ニ對シテ負債ヲ償却セヌ又ハ偽リテ失踪シタルトキハ清国官憲ハ右者ノ逮捕シ負債ノ償却ヲ強制スルニ全カク盡スヘシ英國官憲モ亦等シク英國臣民ニシテ偽リテ其ノ踪跡ヲ晦マシ又ハ清国人ニ對スル負債ヲ償却セサルトキ之ヲ處分スルニ全カク盡スヘシ

第二十三條 貿易ノ為香港ニ赴ク清国人ニシテ同地ニ於テ負債ヲ為シタルトキハ右負債ノ償却ノ同地ニ於ケル英國裁判所ニ之ヲ處理スヘキモノトス但シ清国

人ノ債務者ノ失踪シ且右ノ者ノ清國領土内ニ不動産又ハ動産ヲ有スルヲ判明セルトキハ清國官吏ハ英國領事ノ請求ニ基キ之ト協同シテ當事者間ニ正當ノ處置ヲ執ルニ全ク盡スニ義務アルモノトス

第三四條 英國臣民ハ其ノ輸入又ハ輸出セル一切ノ商品ニ付税率表ニ定ムル税金ヲ支拂フヘキモノトス凡ソ如何ナル場合ニ於テモ他ノ外國臣民カ要求セラルル以外又ハ以上ノ税金ヲ支拂ハシメラルルコトナカルヘシ

第三五條 輸入税ハ貨物陸揚ノ際ニ之ヲ支拂フヘキ又輸出税ハ貨物船積ノ際ニ支拂フヘキモノトス

第三六條 南京條約第十條ニ依リ定メレ且蘇出入口品ニ付従價約五分ノ税金ヲ課スル様見積ラレシ税率表ハ爾來該條約中ニ列擧セル物品ノ價格低落シタル為右諸物品ニ課セラレシ税金カ當初ノ見積ヲ基ニシテ超過スルニ至レルト判明シタルニ因リ前記税率表ハ之ヲ修正スルコト為リ本條約署名後直ニ戶部大臣ヲ上海ニ派遣シ英國政府

ノ派遣スル代表者ト共ニ其ノ修正ヲ正ニ協議セシムル様清國皇帝ニ奏請スヘキモノトス但シ修正税率ハ本條約批准後直ニ其ノ效力ヲ發生スヘシ

第三七條 各締約國ハ十箇年ヲ超過シタル後新定税率及本條約通商條項ノ修正ヲ要求スルコトヲ得ヘシ然レトモ最初ノ十箇年ノ満了後六箇月以内ニ雙方共ニ右要求ヲ為サルトキハ税率ハ前拾年満了ノ時ヨリ起算シテ尚十箇年間其ノ效力ヲ有スヘシ爾後十箇年満了ノ時毎ニ付總テ右同断トス

第三八條 南京條約第十條ニ依リ関税納付者ノ英國輸入品ハ通過税ノ外ニ何等ノ課税ナクテ内地ニ運送セラルヘキ通過税ノ額ハ関税額ニ對シテ定メ割合ニ超過スヘキナルコトヲ定メタルニ因リ又其ノ税額ニ付精密ナル通知ヲ受ケルコトヲ英國商人ハ地方官憲外外國市場ニ仕向ケラルル生産物又清國內地ニ仕向ケラルル輸入品ニ對シ通過税トシテ突然且專

此の課税シ貿易ノ損害ヲ生セシル旨ヲ訴ヘ居リシニ因リ現在(英國)
 島ノ為開放セル一切ノ港ニ於テ本條約署名後四箇月以内ニ今後開放
 セラレハ一切ノ港口ニ於テ又同期間内ニ收税監督官ハ領事ノ請求ニ
 基キ生産地及船積港間ノ生産物並貿易港及領事指定ノ内地市
 場間ノ輸入品ニ課スル稅額ヲ聲明スルコトヲ要ス且右ニ關スル布告ハ
 英文及支那文ニテ一般ニ公示セルヘシ

凡シ英國臣民ニシテ内地ニテ購求セル生産物ヲ港ニ運送シ又ハ輸入品ヲ
 港ヨリ内地市場ニ運送セルトスル際一時ニ税金ヲ納付シテ其ノ貨物ニ付
 一切ノ通過稅ノ煩ヲ免レト欲スルトキハ其ノ隨意タルヘシ此ノ場合ノ
 課稅額ハ輸出品ニ付テハ物品ノ通過スル最初ノ徵稅所(當關)ニ之ヲ
 納ムヘク輸入品ニ付テハ其ノ陸揚港ニ於テ之ヲ納ムヘシ右納付ノ際證明
 書ヲ交付シ之ニ依リ他ノ一切ノ内地稅ヲ免除スヘシ右課稅額ハ能ク限
 リ往價ニ分五厘ノ割合ニ近カラシム様之ヲ計算スヘシ且關稅率改

手爲ニ海ヲ開カレハ協議ニ於テ各品目毎ニ之ヲ決定スヘシ

一 所那タルト否トテ關スル通過稅ノ支拂ハ輸出入海關稅ニ何算ノ影響
 ヲ及ボササルヘク海關稅ハ從來ノ通商別約ニ及テ全部的ニ賦課セルヘシ

第十條 英國商船ニシテ積載量百五十噸ヲ超スルモノハ一噸毎ニ銀四
 錢ノ噸稅ヲ課スヘク百五十噸以下ノモノハ一噸毎ニ銀二錢ヲ課スヘシ

凡シ和船ニシテ清國ノ或開港場ヨリ他ノ開港場又ハ香港ニ出帆セルトキ
 ハ船主ノ請求ニ依リ稅關ヨリ特別證明書ヲ受ケルノ權利ヲ有ス該證明
 書ヲ示ストキハ其ノ出帆ノ日ヨリ起算シテ四月間ハ清國各開港場ニ於テ噸

稅ヲ納ムルコトヲ免除セルルヘトス

第十條 英國商船 船主ハ該船相對着後四十八時間内ニ限り荷卸ヲ為サスシ
 テ其價並港スルコトヲ併其ノ場合ニ於テハ噸稅ヲ納ムルヲ要ス然レトモ右
 四十八時間經過後ハ噸稅納付ノ義務ヲ生スルヤトス但シ入港又ハ出帆ニ
 關シ其地ノ手數料又ハ課金ヲ徵收スルコトナカルヘシ

第三條 英國臣民カ各開港場間ニ旅客手荷物、信書、食料品其ノ
他ノ免稅品ヲ運搬ニ使用スル端艇ハ噸稅ヲ納付スルノ要ナシ然レモ課稅
セラルヘキ物品ヲ運搬スル荷物船ハ六箇月毎ニ同噸稅ヲ支拂フヘシ其
ノ割價一登録噸ニ付銀四錢トス(註)

(註) 支那ニハ一四箇月毎ニ、、、銀一錢トアルモ第五條ノ規定ニ
依リ英文ニ從フヘキトス

第三條 領事及稅關監督官ハ必要ト認ル場合ニ航路標識又ハ燈
台ノ設置並浮標及燈船ノ配置ニ関シ合同協議スヘシ

第三條 稅金ハ千八百四十三年七月十三日廣東ニ於テ定メララル品價表
ニ從ヒ銀又ハ外國貨幣ヲ以テ清國政府ヨリ受取方ヲ認可セララル

銀行業者ニテ支拂マヘシ
第四條 戶部ヨリ廣東稅關ニ發給セル基本畧ニ從ヒテ準備セル度
量衡ノ基本器ヲ稅關監督官ヨリ各港ノ領事ニ交付シテ統一ヲ保

4 混亂ヲ防クヘシ

第五條 英國商船カ開港場ニ到着シタル際ハ港内ニ入ラレカ爲水先
案内者ヲ雇フ自由ヲ有ス同様ニ一切ノ正規稅金ノ納付ヲ了シ出港
ノ用意ヲ爲セル際ニ港外ニ道サカレカ爲水先案内者ヲ選擇スルコトヲ
得

第六條 英國商船カ開港場ノ港外ニ到着スルトキハ稅關監督官ハ
一名又ハ數名ノ官吏ヲ派シテ之ヲ看守セシムヘシ該官吏ハ自己ノ便宜
ニ從ヒ自己ノ小船中ニ居リテ英國商船中ニ乗ルモトス其ノ食糧及
經費ハ稅關ヨリ之ヲ供給スヘク又船主又ハ受託者ヨリハ如何モ報酬
ヲ受ケ(カラヌ)右ノ規定ヲ犯シタルトキハ收銀ノ額ニ應ヒテ之ヲ罰スヘ
シ

第七條 入港後三四時間内ニ船簿及船積證書ヲ領事ニ差出スヘシ
領事ハ其後三四時間内ニ船名、登録噸數及積荷ノ性質ヲ稅關監督

督官ニ通知スヘシ船主方ノ怠慢ヨリ入港後四十八時間内ニ上述ノ規
 則ヲ遵行セザルトキハ船主ハ違滞一日毎ニ五十兩ノ過料ヲ納ルヘシ尤モ過料
 總額ハ二百兩ヲ超スルカハ船主ハ積荷目録ノ正確ナルト付
 責任ヲ負フモノトス右目録ハ船内載貨ノ細目ニ付充分且眞實ニ記
 載スヘシ虚偽ノ目録ヲ差出ストキハ船主ハ五百兩ノ過料ニ處セラルヘシ
 尤モ税関吏ニ渡シタル後二十四時間内ニ該目録中ニ誤謬アルトテ
 見シタルトキハ過料ヲ出サスシテ之ヲ修正スルヲ得

第三十八條 税関監督官ハ領事ヨリ正式ノ通知ニ付シタル後船舶ニ付シ
 船舶ヲ開クヘキ許可ヲ與フヘシ船主ニシテ右許可ナクシテ船舶ヲ開
 キ荷卸ヲ始ルトキハ五百兩ノ過料ニ處セラルヘク且卸シタル荷物ハ悉
 リ之ヲ没收スヘシ

第三十九條 英國商人荷物ヲ陸揚若クハ船積セカトスルトキハ税関監督
 官ノ特別ノ許可ヲ受クヘシ右許可ナクシテ陸揚又ハ船積シタル荷

物ハ没收セラルトアルヘシ

第四十條 特別ノ許可ヲリシテ一船ヲ他船ニ貨物積換ヲ行ハストテ得ズ右不
 法積換ヲ爲シタル貨物ハ之ヲ没收スヘシ

第四十一條 税関監督官ハ一切ノ税金納付者ト爲リタルトキハ出港免状ヲ
 交付スヘク然ル後領事ハ船舶解纜ノ爲ニ船積ヲ返付スヘシ

第四十二條 税率依リ此價稅ヲ課スルヘキ物品ニ關シ英國商人カ清國官
 吏ト其ノ評價上意見合ハサルトキハ雙方共ニ商人兩ニ名ヲ呼来リテ當
 該物品ヲ閱覽セシメ以テ商人カ買ヒ求メルト欲スル最高價格ヲ以
 テ其ノ物品ノ價格ト看做スヘシ

第四十三條 税金ハ各物品ノ正味重量ニ付之テ課稅スヘク其ノ風袋及包
 裝費ヲ控除スヘシ或物品例ハ茶ノ風袋ヲ決定スルニ當リ英國商
 人カ税関吏ト意見合ハサルトキハ雙方共ニ每百兩中ヨリ若干兩宛ヲ
 税ニ之ヲ先ツ風袋共ニ衡リ後ニ其ノ風袋ノミヲ衡リ右若干兩ノ風

袋、平均量ヲ以テ全部各風袋ノ重量ト看做スヘク此原則ニ依リ
 他ノ一切品物及荷物ノ風袋ヲ決定スニ尚決定セサル他ノ論点ア
 ルトキハ英國商人ハ其領事ニ訴スニ領事ハ公平ニ之ヲ處置スル為
 事件、詳細ニ付税關監督官ト協議スニ但シ右ノ訴ハ二十四時間
 以内タルヘリ然ラバ之ヲ受理セサルハシ論議ノ決定セラル間ハ税關監督
 官ハ其帳簿ニ當該物品ヲ記入スルコトヲ見合ハスヘシ

第四十四條 毀損セル物品ニ對シテ毀損程度ニ應ジテ税金ノ公平ナル低減
 ヲ為スコトヲ得之ニ關シテ再輸出ヲ生シタルトキハ從價稅ヲ納ムルキ物品
 ニ關シ本條約條項所定ノ方法ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第五條 英國商人開港場ニ商品ヲ輸入シ其ノ税金ヲ納メ更ニ同
 一物ヲ再輸出セルト欲スルトキハ税關監督官ニ之ヲ願出ルコトヲ得ヘク
 税關監督官ハ開稅ノ通稅ヲ防ク為適當ノ官吏ヲシテ之ヲ検査セシメ
 税關帳簿ニ記入セラルル該物品ニ對シテ納稅額カ商人ノ願出ト一

致ニ且該物品カ當初ノ記号ヲ其儘ニ存スルヤ否ヤヲ見ルヘシ其後
 該物品出港免狀及納稅額ノ覺書ヲ作り之ヲ商人ニ交付シ且他
 ノ開港場ノ税關官吏ニ其事實ヲ證明スヘシ

右一切ノ手續ヲ了シ後該物品ヲ積載セル船舶ノ入港ニ際シ候
 查ノ上ノ事符合スルトキハ船籍ヲ開キ更ニ稅ヲ納ムルヲ要セスシテ
 前記物品ヲ陸揚スルコトヲ許サルヘシ然レトモ右検査ノ際税關監督官
 カ關稅ノ通稅アルコトヲ發見シタルトキハ該物品ハ清國政府ニ之ヲ没
 收スヘシ

英國商人カ納稅者ノ輸入品ヲ外國ニ再輸出セムトスルトキハ清國內ノ他
 港ニ再輸出ノ場合ト同一ノ手續ヲ經テ引戻免狀ヲ受取ルヘシ該免狀ハ輸
 出ノ稅納付ノ証トシテ税關ニ差出スヘキモノナリ

英國船舶ニ清國ノ一港ニ運送セラレタル外國穀物ハ其ノ陸揚セシレ
 タルモノ皆無クトキハ故章ナク再輸出ヲ為スコトヲ得

第四六條 各港ニ於テ清國官憲ハ詐欺其ハ密輸入ニ因ル收入ノ損害ヲ
所カレカ爲最適當ト認ルル方法ヲ執ルヘシ

第四七條 英國商船ハ本條約ニ依リ開放ヲ宣言セラレタル貿易港以外ノ
港ニ赴クヘカラス又不法ニ清國ノ他港ニ入り又ハ其ノ海岸ニ於テ穩密ニ貿易
ヲ爲スヘカラス其ノ條項ニ違反スル船舶ハ其載貨ト共ニ清國政府之ヲ没
收スヘシ

第四八條 英國商船カ密輸入ニ關係スルトキハ當該物品ハ價格又ハ性質
ノ如何ヲ問フテ清國政府ニ没收セラルヘク船舶ハ爾後貿易ヲ禁ズルニ其ノ
清算カ完了スルト同所ニ退去セシメラルヘシ

第四九條 本條約ニ基キ執行セル過料金及沒收品ハ清國政府ノ公務ニ
使用セラルヘシ

第五十條 女皇陛下ノ外交官及領事官ヨリ清國官憲ニ宛テ送ル公
信ハ爾旨總テ英文ヲ以テ之ヲ認リ又當分ノ間ハ支那文ノ翻譯ヲ

添付スヘキモ英文及支那文ノ原本間ニ意味ノ相違アル場合ハ英國政府
ハ英文原本ノ示ス意味ヲ以テ真義ト爲スモノトス

本條項ハ現ニ改商セル條約ニ適用セラレ其ノ支那文原本ハ英文原本ニ依
リ穩密ニ訂正ヲ經タリ

第五一條 爾今英國女皇陛下ノ政府若クハ臣民ニ對シ首都及地方ニ於
テ清國官憲ノ宛セル清國公文書ニ於テ「夏」ノ文字ヲ使用セラルヘトス

第五二條 英國軍艦敵意ナクシテ一港ニ入ル海賊追捕ニ從事スルトキハ
清國皇帝版圖内ノ何ノ港ヲ問ハス之ニ入港スルノ自由ヲ有シ又食糧
購入、給水及必要ノ場合ニ其ノ修繕ヲ爲ス爲充分ノ便宜ヲ受クヘシ
右軍艦指揮官ト清國官吏ト應接ノ對岸ノ礼式ヲ以テスヘシ

第五三條 締結國ハ清國近海ニ於ケル海賊ノ横行ニ依リ清國及外國人
ノ通商上被レル損害ニ鑑ミ共同シテ其ノ鎮壓ノ方法ヲ講スヘキコトヲ

約ス

第四條 英國政府及臣民ハ從前ノ諸條約ニヨリ附與セラルル一切ノ特
權、免除及利益ヲ茲ニ確認セルル又英國政府及臣民ハ清國皇帝陛
下ノ他國政府又ハ臣民ニ對シ既ニ附與シタル得來附與スル一切ノ特
權、免除及利益ニ付自由平等ニ均沾スルコトヲ得ヘシ

第五條 大不列顛國女皇陛下ハ好意ヲ繼續セシムル希望ノ証トシテ
廣東事變ニ基キル費用及損失ニ對スル賠償條件ヲ本條約ノ條
項ト全然同意ノ效力ヲ有スル特別條項中ニ包含セシムルコトニ同意ス

第六條 大不列顛國及開明合王國女皇陛下及清國皇帝陛下ノ各
自親署セル本條約批准書ハ署名ノ日ヨリ一箇月内ニ北京ニ於テ交
換セラレハシ

右証據トシテ又方ノ全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ
基督紀元一千八百五十八年六月二十日即チ清曆咸豐八年五月十六日天
津ニ於テ本書ヲ作成ス

花ジシ、エント、キンカト、イオン

柱 良
花 次 郎

天津條約附屬特別條項

廣東ニ於テ清國官憲ノ失策ニ因リ英國臣民ノ被リタル損失ニ對シ
二百萬兩ノ金額及女皇陛下カ賠償ヲ保且條約規定ノ遵守ヲ強
制セムカ爲起スル止ムコト得サリシ蓋証軍ノ經費ニ對シ更ニ二百萬兩ノ金
額ヲ廣東省ノ官憲ヨリ清國ニ於ケル女皇陛下ノ代表者ニ支拂フヘ
シ

右支拂ヲ爲スル時期及方法ニ關スル必要ノ借置ハ女皇陛下ノ代表
者ニ於テ廣東省ノ清國官憲ト協議ノ上之ヲ決定スヘシ
前記ノ金額全部ノ支拂ヲ行ハシタル時ハ英國軍隊ハ廣東市ヨリ

撤退スヘシ

基督紀元一千八百五十八年六月三日即今清曆咸豐八年五月十六日天津ニ於テ本書ヲ作成ス

通商規則ノ包含スル協定(天津條約附屬通商章程)

千八百五十八年十一月八日上海ニ於テ署名

規則第一 列強ニシラレサル貨物 (略)

規則第二 無稅貨物 (略)

規則第三 對峙時禁制品 (略)

規則第四 度量衡 (略)

規則第五 從來對峙禁制品ヲシテ或商船以前ノ規則 (略)

規則第六 開港場ニ入ル商船ノ義務 (略)

規則第七 抵代稅 (通過稅)

天津條約第二十八條ハ同條約第二條ニ規定セル從價二分五厘ノ抵代稅ノ課セラレキ無稅貨物ノ場合ニ除ク外英國臣民ノ輸入スル輸出スル商品ニ法律上賦課スヘキ抵代稅ノ額ハ關稅ノ半額ナリト聲明サルモノト解釋スヘキコトヲ協定セリ 商品ハ左ノ條件

ノ下ニ於テ爾後ノ抵代稅ヲ支拂フノ要アリシ

輸入の場合 輸入品ヲ内地へ發送スル開港場ニ於テ貨物ノ性質
及數量右貨物カ荷揚サレタル船舶並右貨物ノ仕向ケラレシキ内
地ノ場所其ノ他一切ノ必要ナル詳細事項ノ通知ヲ受ケタルトキハ
税関ノ收税官ハ適當ナル検査ヲ為シ且收入スヘキ抵代税ヲ領
シタル上抵代税收入證明書發行ス右證明書ハ各常關ニ於テ之
ヲ掲示シ檢閲裏書ヲ受ケルコトヲ要ス貨物ノ仕向地カ如何ニ遠
隔ナリトモ右ノ證明ヲ受ケタル輸入品ニ對シテハ其レ以上何等ノ課
税ヲ為スコトモ得ザルヘシ

輸出の場合 英國臣民カ内地ニ於テ購入シタル產物ハ之ヲ輸出スル
港ニ至ル途上ノ最初ノ常關ニ於テ検査及認證ヲ受ケヘシ右產物ノ數
量及之ヲ記載セザル證明書ハ右產物ノ管理者之ヲ
管理者カ輸出港ニ至ル途上ノ各常關ニ於テ之ヲ提示シ檢閲裏
書ヲ受ケヘシ貨物カ港ニ最近接セル常關ニ達シタルトキハ同悉稅関
ニ通知スヘシ之ニ對スル抵代税ヲ支拂ヒタルトキハ通過ヲ許サルヘシ右

貨物ノ輸出セラレタルトキハ關稅ヲ支拂フヘシ

茲ニ規定セル規則ニ違背スル以外安否ヲ以テ貨物ヲ國內又ハ國外
へ運送セシムルトキハ右貨物ハ之ヲ沒收シ得ルモノトス

開港場ニ仕向ケラレタル貨物ニシテ前記ノ如ク登録セラレタルモノヲ運
送シテ於テ認可ナクシテ販賣スルトキハ右貨物ハ之ヲ沒收スルコ
トヲ得ヘシ證明書ニ明記セル數量ヲ超過スル貨物ヲ通過セシムルトキ
ハ證明書ニ記載セル同一名稱ノ貨物全部ハ之ヲ沒收ス
ルコトヲ得ヘシ

抵代税ノ支拂情ナリコトヲ證明スルコト能ハサル產物ハ抵代税ノ支
拂アル迄税関ニ於テ之ヲ輸出許可ヲ拒絕スヘシ

右ハ斯ク唯一回包括的ニ賦課セラレヘキ抵代税ニ關シテ定ムラレタル
協定ナリテ天津條約第廿八條ノ下ニ要求セラレシ英情西國
臣民ニ知ラシムル為メ告知スル茲ニ省略ス

規則第八條旅行免狀ニ基テ外國人通商ニ對スル北京ノ除外(略)

規則第九條解手数料ノ廢止
規則第十單一制度、下ニ於ケル各港、徵稅

(略)

英清通商條約 (所謂マッケー條約)

千九百三年七月ニテ北京ニ於テ批准交換
名(英、支文) 光緒二十八年八月十四日上海ニ於テ署

千九百三年七月ニテ北京ニ於テ批准交換

第八條 凡例 清國政府ハ生産地、通過地及仕向地ニ於テ商品
ニ釐金其ノ他、賦金ヲ課スル、制度ハ貨物ノ自由移轉ヲ妨ケ
貿易ノ利益ヲ害スルコトヲ認ム本條八項ノ制度ニ從ヒ右收入増加ノ
方法ヲ全廢スルコトヲ茲ニ約ス

英國ノ政府ハ右代償トシテ英國臣民ノ輸入セル外國商品ニ關稅
ヲ課スルニ當リ協定稅額ノ外、附加稅ヲ課シ且ツ外國又ハ沿岸
輸出ニ供スル清國生産品ニ輸出稅附加稅ヲ課シ得(キコトニ同意
ス)

釐金全廢且通過貨物ニ課稅ニ他、稅額ヲ撤廢シタル後ハ形式又
ハ名義ノ如何ノ問ハス再ヒ右ノ種ノ稅額ヲ復活セザル(キコト、何

等、場合ニ於テモ外國輸入品ニ對スル附下税ハ千九百一十一年九月七日清國ト列國ノ調印シタル最終議定書ニ規定セル輸入税ノ一倍半ヲ超過セザルヘキト、輸入税及附加税ヲ納附シタル外國輸入品ハ其ノ清國臣民ノ手ニ在ルト外國臣民ノ手ニアルト問ハス又原包裝ノ儘ナルト否トヲ問ハス一ツノ課税、検査又ハ抑留ヲ全ク免除セザルヘキト茲外國ニ輸出スル清國生産品ニ課スヘキ税額ハ何等ノ事情アルヲ問ハス從價七分五厘ヲ超過セザルヘキトハ茲ニ明白ナル了解ヲ經タリ以テ根本原則ニ基キ西締約國ハ左ノ手續方ヲ協定セリ

第一項 清國政府ハ清國十八省及東三省ノ各道路、鐵道及水路ニ於テ釐金其他ノ課金ヲ徵收スヘキ稅局ハ其ノ種類、如何ヲ問ハス悉ク永遠ニ之ヲ廢止スヘキコトヲ約ス但シ本規定ハ海港、水路開港場、陸路及陸地國境地方ニ現存スル常關ニハ之ヲ適用セザルモノトス

第二項 英國政府ハ清國政府ニ於テ釐金、釐金代ノ通過税其ノ

他ノ諸稅ヲ撤廢スル代償トシテ日本條ニ定ムル其他ノ改革ニ鑑ミテ外國輸入品ニ付千九百一十一年ノ議定書ニ定ムル現行五分ノ輸入税ノ外右輸入税ノ一倍半ニ相當スル特別附加税ヲ支拂フヘキコトニ同意ス但シ本規定ハ第三項ヲ五項、第六項及第八項ニ定ムル鹽、內國產阿片其他ノ內國生産品ニ對スル清國政府ノ課稅權ヲ何等妨テザルモノトス

陸地國境ヨリ清國十八省及東三省ニ輸入スル貨物ニ對シテ海路輸入品ト均シク右同額ノ附加税ヲ賦課スル

第三項 戶部及工部別例並大清會典ノ規定ニ基キ各開港場、内地稅路、陸路及陸地國境ニ現存スル一ツノ常關ハ之ヲ存續スルコトヲ得但シ其ノ所在地ヲ記シタル明細表ノ記録ニ存スル為之ヲ英國政府ニ供與スル

海關ニ現存地者ハ將來設置スヘキ地並海港若ハ陸地國境ノ任意ノ地點ニ常關ヲ設置スルコトヲ得

清國政府ハ貿易ノ情况上ニ要ト認ムルハ常關ノ所在地ヲ変更
スルコトヲ得但ニ右変更ハ明細表訂正ニ為英國政府之通知ス
ヘシ又其ノ數ハ從來ヨリ増殖スヘカラカシムトス

支那船又帆船ヨリ開港場ヨリ運送スル貨物ニ付支拂ノヘキ税
金ハ汽船ヨリ運送スル同一ノ貨物ニ賦課スヘキ輸入税及附加税ノ
合計額ヨリモ低額ナラザ得ス

清國生産品ヨリ内地ノ一地方ヨリ他地方ニ輸送スル場合ニハ生産地ヨ
リ最近ニ別表ニ於テ常關ニ於テ定メ定メ輸送附加税ヲ納付
スヘシ

右税金納付済ノ際貨物ノ品種、重量、包裝、個數等及納税
額並其ノ仕向地ヲ明記セル證明書ヲ交付スヘシ右證明書ハ納税ノ
日ヨリ(年)以上、一定ノ期間效力ヲ有シ依テ以テ貨物ヲシテ途中ノ常
關ニ於テ一卸ノ課税、検査、遅滞、又ハ抑留ヲ受ケルコトナカラシムルモ
ノトス

右ノ貨物カ地方用途、為開港場ニ於ケル外國人居留地又ハ專管
居留地以外ノ地方ニ輸送セラレル場合ニハ常關ニ掲ケル消費税
ヲ課セラレムトス

又該貨物カ開港場ヨリ貯積セラレトキハ前記證明書ハ第七項
ニ記載セル輸出附加税ノ代物トシテ關係税關ニ依リ認諾セ
ラルヘシ

又那船端艇又ハ貨車ニ付シテハ毎年一定セル相當ナリ少額ノ課
金ヲ除クノ外何等ノ賦課ヲ受ケルコトナカレシ但シ支那ノ船ニ課
ス(噸税(船鈔)及港税(船料)ハ此ノ限ニ在ラス

第四項外國產阿片ニ付スル税金及現行釐金ハ現行條約規
定ニ從ヒ存続スルモトス但シ釐金ハ爾今附加税ト為ルモトス
第五項英國政府ハ内國產阿片ニ付スル清國政府ノ課税權ニ干
渉スルノ意思ヲ全然有セズ然レトモ其ノ課税徵收手續、為清
國ノ他ノ貨物ヲシテ課税、遲滞、又ハ抑留ヲ受ケルコトヲ宣言

スルヲ必西オトス

清國ハ水陸ヲ問ハス各省疆域、極要ナル地點ニ内國産阿片稅
 徴收局ヲ存置スル、自由ヲ有スルコト右徴收局ニ於テハ該省内ニテ
 賦課セラルヘキ一切ノ種類ノ稅金ニ該當スル稅金又ハ賦金ヲ一括
 シテ納付スルコトヲ得ヘシ納付情、阿片ニハ毎塊該省、證印ヲ押
 捺スヘシ又右徴稅局ノ為收稅更及整警察官ヲ使用スルコトヲ得然
 レトモ牆壁又ハ障害物ヲ設置スヘカラス且該收稅更及整警察官ニ
 於テ阿片以外ノ貨物ニ對シ抑留又ハ煩累ヲ及シ又ハ課稅スルコト
 アルヘカラス

右徴收局開辦表ヲ作り記録ニ備フル為英國政府ニ之ヲ送付スシ
 茅大塊塩ニ對スル釐金ハ之ヲ廢止ス釐金其ノ他、稅金及賦金ノ
 總額ハ塩稅中ニ之ヲ加ヘ生産地ニ於テ又ハ消費スルキ省内ニ移入後
 長初、常關ニ於テ徴收スヘシ
 清國政府製塩通商局ヲ設置シ隨意製塩通商券又ハ聲明書ヲ

携帶シテ運送スル製塩塔載、端艇ニ停船ヲ命シテ之ヲ檢閲シ
 證明書ニ裏書スルコトヲ得ヘシ但シ右通商局ニ於テ釐金若ハ通商
 稅ヲ徴收シ又ハ種類ノ如何ヲ問ハス牆壁若ハ障害物ヲ設置スヘカ
 ラス

第七項 清國政府ハ從價五歩ヲ超過セザル範圍ニ於テ輸出稅
 ヲ実行可能ナル限り從量稅ニ改新スルコトヲ得ヘシ但シ現行ノ輸出稅ハ
 少クシテ六箇月前ニ豫告スルニ非ザレハ之ヲ引上ケルコトナカレハシ
 現行ノ輸出稅率ニテ五歩ヲ起スルモノヲ引上ケルコトナカレハシ
 下クヘシ

内地稅及釐金、代價トシテ當分輸出稅ノ半額ヲ課スルニ特別
 附加稅ハ外國又ハ清國沿岸ニ輸出セラルル貨物ニ付其ノ輸出除
 之ヲ徴收スルモノトス
 生絲、産繭、アト機械、アトノ間ハ其ノ輸出稅、總額ハ從價三
 歩以下ニ相當スル從量稅ヲ超過スヘカラス右從量稅ノ半額ハ生糸

通過する最初、内地常関ニ於テ之ヲ徴收スルコトヲ得此、場合ニ於
 テハ海關ハ第三項ニ規定セル所ニ依リ證明書ヲ交付スヘク該證明
 書ハ輸出地ノ當該海關ニ於テ輸出税ノ半額ニ代用スルコトヲ認諾セ
 ラル(シ類ハ常関員迄、陪何等、税金ヲ課セラシムコトナカレシ生糸
 ・ノ外國ニ輸出セラレシテ清國內地ニ於テ消費セラシムトキハ第八項ニ掲
 クル條件ニ依リテ消費税ヲ課スルシ

第八項 釐金、廢止之輸入外國品及輸出品ニ對スル其、他、各種、
 内地税、抽葉ニ因リ若シク輸入ヲ減少スヘシ輸入外國品、輸出品及
 沿海輸出品ニ對シ附加税ハ右歲入缺損ニ對シ、代償、趣旨ニ出ツ
 ルモノナラズ尙内地貿易ニ於テ釐金收入、缺損アルニキヲ以テ清國
 政府ヲ輸出ノ目的ヲ有セザル自國原産ノ貨物ニ消費税ヲ隨意
 ニ課シ得ルコトニ同意ス

該消費税ハ右貨物ヲ消費スル地方ニ於テ課セラレハク貨物通過地
 ニ於テ之ヲ課スヘラス清國政府ハ之ヲ徴收スル際シ何等ノ方法ヲ以テスル

外國貨物及輸出入内地産貨物ニ干渉セザルコトヲ願ニ納ス又同
 物カ既ニ外國原産タル以上、其、海關ヲ通過セル後ニ於テ課税ニ遲滞
 又ハ抑留セラシムコトナカレシ

内地産貨物ニ類似セル外國貨物、其、所有者ノ要求ニヨリ海關ニ
 於テ輸入税及附加税納付済ノ每箇貨物ニ對シ保護證明書ヲ發
 給シ以テ内地輸送後、紛議ヲ妨クヘシ

支那船ニヨリ開港場ニ送致シタル清國産貨物ハ其、地方的消費
 目的トストキハ所有者、國籍如何ニ拘ラス常関ノミニ届出ツヘク
 且該常関ニ於テ消費税ヲ課スルシ

清國ハ右消費税率ヲ自ラ定メ得ヘク當該貨物、性質、如何ニ依
 リ即チ生活必需品タルト奢侈品タルトニ依リ其、税率ヲ異ニス
 (キモ同一種類、貨物ニ對シテハ支那船、帆船又ハ汽船、何レニ依リテ輸
 送セラレハ問ハス一定、税率ヲ課スルシ第三項記載、通外國居留

地又ハ專管居留地内ニ於テハ消費税ヲ課シ得サルモノトス

第九項 清國ニ於ケル機械製綿糸及綿布ニ對シテハ開港場ノ外國人ニ依リテ製造セラント清國各地ノ清國人ニ依リテ製造セラントヲ問ハス十九百一年議定書ニ規定セン輸入税ノニ位ニ相當スル税金ヲ賦課スルシ

外國ヨリノ輸入棉花ノ輸入税ノ金額附加税ノ三分ノ二ヲ拂戻サルノノ清國紡績財ニテ使用スル清國棉花ノ消費税其ノ他一切ノ税金ヲ拂戻サルンシ

清國機械製綿糸又ハ綿布ニシテ製造税納付済ノモノハ輸出税、輸出附加税、沿海貿易税及消費税ヲ賦課セラント右製造税ハ清國海關ニ於テ之ヲ徵收スルモトス

前記原則及手續ハ其ノ他一切ノ機械製外國品模造品(其ノ生産者カ開港場ニ於ケル外國人タルト清國各地ニ於ケル清國人タルトヲ問ハス)ニ之ヲ適用スルシ

右規定ハ湖北省漢陽及大冶製鉄所其ノ他同種ノ現存官業

ノ製品ニシテ從來無税ナリシモノ又ハ今後建設セラレキ機械官

設船渠其他ノ官業ノ製品ニハ之ヲ應用セス

第十項 清國海關ノ外國人吏員ハ各省ノ總督及巡撫ニ於テ之ヲ選任スル且總稅務司ト協議ハ上右省ニ付常關事ノ發消費税塩税及内地産阿片税ノ管理ヲ擔任セシムンシ

此等ノ外國人吏員ハ其ノ局所ノ事務進捗ニ付有效ナル監督ヲ為スシ且貨物ノ運送ニ関シ權力乱用、不法ノ誅求、阻礙其ノ他不當ノ廉アルトキハ直ニ之ヲ總督又ハ巡撫ニ通知スルヲ當該總督又ハ巡撫ハ此等ノ弊中ノ重クヲ除去スルノ處置ヲ直ニ報ルヘシ

第十一項 本條ニ記載センル不法行為ノ申告アリタル場合ニ於テハ相當階級清國政府官吏ハ相當地位ノ英國官吏及清國海關吏員ト合同シテ迅速ニ之ヲ調査スルシ右申告ニシテ係官ノ多數決ニテ正當ナル根據ヲ有シ且實際損害アリト認メタルトキハ

最寄開港場ニ於ル清國海關ヲ經テ附加税收入中ヨリ之ヲ船

償スハシテ該省ノ官級ノハ責任ハ不法行為ヲ為シタル市吏
ヲ嚴罰ニ處ス且罷免ス

又右ノ事ニテ理由ナキコト判明シタルハ申告者ハ其調査費ヲ負
擔ス

英國公使ハ自己ノ所持ノ證據ニ據リ不法ノ誅求又ハ阻礙ノ行
ハレタルコト確實ト認めタルキハ調査ヲ要スルノ權利ヲ有ス

第十二項 清國政府ハ南京條約及天津條約ニ依リ外國貿易
ニ開放シタル諸港ト同一條件ヲ以テ右ノ諸港ヲ開クコトニ同意
ス

湖南省ノ長沙

四川省ノ萬縣

安徽省ノ安慶

広東省ノ惠州

広東省ノ江門

前記諸港ニ居留スル外國人ハ清國人居住ト同一條件ヲ以テ
其ノ市政規則及警察^視察則ヲ遵守スルノ承諾ヲ承諾ナキ
限り比等ノ開港場内ニ自治的ノ市政及警察署ヲ設クベカラ
得ス

若シ本條ニシテ施行スルニ至ラザルトキハ第十三條ニ規定セハ江門ヲ除
キ其他前記諸港開放要ノ權利ハ消滅スルベシトス

第十三項 本條ニ定ムル諸措置ハ一九〇四年一月一日ヨリ之ヲ実施ス
ルニ但シ第十四項ノ規定ニ從フモノトス

右期ノ期限ニ各地ノ釐金局撤廢シ本條約ニ於テ禁止スル諸稅
ノ徵收ニ從事セル市吏更ハ悉ク之ヲ移動ス

第十四項 清國政府ハ本條約ヲ締結スルニ當リ本條ニ依リ英國
政府及臣民ニ負ハシメタル附加稅ノ納入及其ノ義務ヲ關シ清

國ニ於テ最惠國待遇ヲ享受スル一カノ國ヲ英國ト同一ノ約款ヲ
締結スルコトヲ度諾スルコトヲ條件トス英國政府ハ左記ノ條件トシ

テ本條約ヲ締結ス

(一)現在若クハ將來清國ニ於テ最惠國待遇ヲ享受スル一印ノ國

カ英國ト同一ノ約款締結ヲ度諾スルコト

曰有列國ノ受諾ノ結果間接又ハ直接ニ清國ヲシテ何等政治

上ノ讓與又ハ通商上ノ獨占的利權ヲ許容セシムニ至ラザルコ

ト

第十七項、清國ヨリ最惠國待遇ヲ享受スル列國カ千九百四年一

月一日迄ニ本條ニ依リ英國ノ約シタルコト同一ノ約款ヲ締結

セザリシトキハ本條ノ規定ハ右一印ノ國カ該約款ヲ受諾スルコトヲ表明

シタル後始メテ效カフ生スルコトス

第十八項、本條ニ定ムル如ク貨物ニ対スル釐金其他ノ各種内地稅

ノ撤廢決定シ且裁可ヲ經クルトキハ黃紙ニ記載シ正式ノ上諭ヲ

發シテ貨物ニ対スル釐金全稅、釐金局及各種内地稅ハ本條ニ別

段ノ規定ニ依リ爾後永ク之ヲ廢止スル旨ヲ布告スルコト

右ノ上諭ニ各府高級官更ハ專任ヲ以テ上諭ノ文面及精神ヲ

無視スルハ亦更テ嚴四訓ニ處シ且罷免スル旨ヲ明示スルコト

日清通商航海條約

明治三十九年七月二十日 北京ニ於テ調印(英日並立)
 同 年九月二十九日 批
 同 年十月二十日 北京ニ於テ批准交授
 同 年十一月二日 公布

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ明治二十八年四月十七日即光緒二十一年三月二十三日下ノ関ニ於テ調印セラレタル條約第六條ノ規定ニ依リ通商航海條約ヲ締結スルコトニ決セリ因テ大日本國皇帝陛下ハ北京駐劄特命全權公使正四位勳一等子男爵林董ヲ大清國皇帝陛下ハ欽差全權大臣總理各國事務大臣尚書銜戶部左侍郎張蔭桓ヲ各其ノ全權大臣ニ任命シタルヲ以テ兩國ノ全權大臣ハ互ニ^其委任状ヲ示シ其ノ良好妥當ナク認メ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

大日本國皇帝陛下ト大清國皇帝陛下トノ間並ニ兩國臣民ノ間ニ永遠無窮ノ平和及親睦アルヘシ而シテ兩國臣民ハ各各兩國締盟國一方ニ於テ其ノ身體

及財産ニ対シ等シク完全ナル保護ヲ享有スヘシ

第二條

大日本国皇帝陛下ハ便宜ニ從ヒ其ノ外交官ヲ清国北京ニ駐劄セシムルコトヲ得
大清国皇帝陛下モ亦便宜ニ從ヒ其ノ外交官ヲ日本国東京ニ駐劄セシムルコト
ヲ得

右駐劄外交官ハ各各國際公法ニ因リ之ニ附與スル一切ノ權利、特權及免除ヲ
享有シ且總テ最惠國ノ同様ノ外交官ニ附與スル所ノ待遇ヲ受クルコトヲ得其
ノ身體、家族、隨員、衙署、居館及往復書信ハ凡スヘカラサルモノトス

右外交官ハ毫モ障礙セシムルコトナク其ノ役員、使丁、通訳人、僕婢及從
者ヲ隨意ニ選用スヘシ

第三條

大日本国皇帝陛下ハ外國通商ノ爲メニ現ニ開カレ若ハ將來開カルヘキ清国ノ港市
ノ内日本帝國ノ利害ニ必チ干リト認ムル場所ニ總領事、領事、副領事及代辦領

事ヲ駐在セシムルコトヲ得

右領事官ハ清国官吏ヨリ相當ノ禮遇ヲ受ケ且最惠國ノ領事官ニ現ニ附
與シ若ハ將來附與スヘキ總テノ資格、職權、裁判管轄權、特權及免除ヲ
享有スヘキモノトス

大清国皇帝陛下モ亦同シク日本国内ニ於テ他國ノ領事官カ現ニ駐在シ若
ハ將來駐在スヘキ場所ニ總領事、領事、副領事及代辦領事ヲ駐在セ
シムルコトヲ得而シテ右領事官ハ日本国ニ在ル清国臣民及財産ニ對スル日本
帝國裁判所ノ裁判管轄權ニ屬スル事項ヲ除クノ外通常領事官ニ附與スル
權利及特典ヲ享有スヘシ

第四條

日本国臣民ハ其ノ家族、雇員及僕婢ト共ニ現ニ外國人ノ居住貿易ノ爲メ開キ
又ハ將來開クヘキ所ノ清国ノ諸港諸市ニ往來シ居住シ商工業、製造業ヲ営ミ
又ハ其他一切合法ノ職業ニ従事シ且其ノ商品及携帶品ヲ搭載シ前記諸用

港地間ヲ隨意ニ往來スヘク又其地ニ於テ外国人ノ使用及占有ノ爲メ既ニ選定ニ若
ハ將來選定セラルルハキ地区内ニ於テ家屋ヲ賃借賣買シ地所ヲ賃借シ寺院、墓
所、病院ヲ建設スルコトヲ得但シ此等一切ノ事項ニ付最惠國ノ臣民或ハ人民ニ現ニ附
與シ若ハ將來附與スヘキモノト同一ノ特權及免除ヲ享有スヘキモノトス

第五條

日本國船舶ハ現ニ五寄港ナル安慶、大通、湖口、武穴、陸漢口及吳淞併ニ將來
立寄港トセラルルヘキ總テノ場所ニ於テ外國貿易ニ關スル現行章程ニ從ヒ旅客
商品ヲ積卸セシムル爲メ之ニ立寄港スルコトヲ得

清國ノ諸開港及諸立寄港外ノ港ニ不法ニ進入シ若ハ沿海及河筋ニ於テ密商
ニ從事スル船舶ハ其ノ積荷ト共ニ清國政府ニ於テ之ヲ沒收スヘキモノトス

第六條

日本國臣民ハ自國領事ヨリ下附シ地方官ノ副署シタル旅券ヲ携帯スルキハ游
覽又ハ商用ノ爲メ清國內地ノ各部ニ旅行スルコトヲ得而シテ該旅券ハ旅行

地方ニ於テ檢査ヲ求メシタルトキハ之ヲ示スヘキモノトス 該旅券ニ不正ノ莫ナキ
ニ於テハ攜帶者ハ進行ヲ許可セラレ且其ノ旅行用ノ爲メ又ハ攜帶品商運搬
ノ爲メ人夫畜類、車輛、船隻ヲ雇入ルルニ故障アルヘカラス 若シ旅行者ニシテ
旅券ヲ携帯セス又ハ法律ヲ犯ストキハ之ヲ處分スル爲メ最寄ノ領事官ニ引渡スヘ
シ但シ其ノ際唯必要ノ拘束ヲ加フルノミニシテ決シテ之ヲ虐待スヘカラス 旅券ハ
之ヲ發シタル日ヨリ清曆十三箇月間效力ヲ有スヘシ 日本國臣民旅券ヲ攜帶
セスニテ内地ニ旅行シタルトキハ三百兩ヲ超過セサル罰金ニ處スヘシ 尤モ日本國
臣民ハ各開港地ヨリ一百清里以内ニハ五日間ヲ限トシ旅券ヲ携帯セスニテ
遊歴スルコトヲ得但シ本條ノ規定ハ之ヲ船舶乘組ノ水文ニ適用スルコトヲ得ス

第七條

清國ノ開港地ニ住居スル日本國臣民ハ清國臣民ヲ雇入レ惣テ正當ノ業務ニ之ヲ
使用スルコトヲ得
但シ清國政府又ハ官吏ニ於テ之ヲ制限シ或ハ妨礙スルコトヲ得ス

第八條

日本国臣民ハ荷物又ハ旅客運搬、為メ一切ノ船隻ヲ賃借スルコトヲ得而シテ
之カ為メ拂フヘキ金額ハ貸借人相互ノ間ニ於テ之ヲ定メ清国政府又ハ官吏之ニ
干渉スルコトヲ得ス船隻ニ對シ制限ヲ置クヘカラス又ハ右船隻ニ因シ若ハ貨物運
搬ニ従事スル人丈ニ關シ何人ニモ專業免許ヲ附與スルコトヲ得ス而シテ右船隻
ヲ以テ密商ニ従事スルモノハ法ニ照シ之ヲ處罰スヘシ

第九條

清国ト泰西諸国トノ間ニ實施スル税目及税則ハ日本国臣民カ清国へ輸入シ若ハ日本
国ヨリ清国へ輸入シ又ハ日本国臣民カ清国ヨリ輸出シ若ハ清国ヨリ日本国へ輸出
スル際一切ノ物品ニ適用スヘシ清国ト泰西諸国トノ間ニ存在スル税目及税則ニ於
テ特ニ輸入若ハ輸出ヲ制限シ若ハ禁止セサル物品ハ規定ノ輸入税若ハ輸出税ヲ
拂フノミニ自由ニ清国へ輸入シ若ハ清国ヨリ輸出スルコトヲ得ヘシ但日本国臣
民ハ何等ノ場合ニ於テモ最惠国臣民若ハ人民カ清国ニ於テ現ニ納メ若ハ将来

納ムヘキ輸出入税ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ納税ヲ要セラルルコトナカルヘシ
又日本国ヨリ清国へ輸入シ或ハ清国ヨリ日本国へ輸出スル一切ノ物品ハ其ノ輸
出入ニ際シ最惠国ヨリ輸入シ或ハ之へ輸出スル同様ノ物品ニ對シ清国ニ於テ
現ニ課セラレ若ハ将来課セラルヘキモノト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税ヲ課セラ
ルコトナカルヘシ

第十條

日本国臣民カ清国へ輸入シ或ハ日本国ヨリ清国へ輸入シタル一切ノ物品ハ現
行章程ニ從ヒ開港場ト開港場ノ間ヲ運搬中其ノ所有者ノ国籍或ハ之ヲ
運搬スル運具船舶ノ国籍如何ニ拘ラス之ニ對シ全ク各種ノ税金、賦課金、
手数料、釐金等ヲ取立ツヘカラス

第十一條

日本国臣民ニシテ輸入物品ヲ清国内地ノ市場ニ運搬セムト欲スルモノハ其ノ
物品ノ有税品ナルトキハ輸入税ノ二分ノ一、無税品ナルトキハ從價二分半ニ當ル

然代税ヲ拂ヒテ其ノ物品ニ対スル一切ノ通過税ノ免除ヲ受ルコト其ノ勝手ヲ
ルヘシ面シテ右抵代税ヲ拂ヒタルトキハ該物品ニ対シ一切ノ内地税ヲ免除ス
ル為メ證書ヲ發附スヘキモノトス
但シ本條ハ輸入阿片ニ適用セサルコトト知ルヘシ

第十二條

清国ニ在ル日本国民力清国開港外ノ地ニ於テ買入レタル一切ノ清国生産
物及物品ニシテ輸出セラレトスルモノハ前條ニ記載シタル税率ニ依リ輸入
税ノ代リニ輸出税ヲ基礎トシテ算出シタル抵代税ヲ拂ヒタル上其ノ輸
出ニ際シ單ニ輸出税ヲ拂フ外ハ清国各地ニ於テ各種ノ税金、賦課金、
手数料、釐金等ヲ免セラルヘシ但シ右ハ前記ノ生産物及物品ニシ
テ通過税ヲ拂フ日ヨリ十二箇月ノ期限内ニ現ニ外國ニ輸出セラレタ
ル場合ニ限ル

日本国民力清国ノ開港地ニ於テ買入レタル一切ノ清国生産物及物品ニ

シテ海外輸出ヲ禁セラレサルモノハ輸出ノ際單ニ輸出税ヲ納ムル外ハ一切ノ内地
税、賦課金、手数料、釐金等ヲ免除セラルヘシ且日本国民力清国各地ニ於
テ輸出、為メ買入レタル一切ノ物品モ亦現行章程ニ從ヒ各開港間ニ運搬ス
ルヲ得ルモノトス

第十三條

商品ニシテ其ノ出所外國ニ屬スルコト係ナリ且之ニ対シ已ニ輸入税ヲ完納シタルト
キハ其ノ輸入ノ日ヨリ三箇年内何時又日本国民力於テ何等ノ輸出税ヲ納ム
ルコトナリシテ之ヲ清国ヨリ何レノ外國ヘス輸出スルコトヲ得又該再輸出者已
ニ右商品ニ対シ納メラルル輸入税額ニ向テ清国税關ヨリ税金拂込證書ヲ受ケ
ヘシ但シ該商品ハ原荷作ノ儘完全ニ保存セラレ異動ナキヲ要ス右拂込證書ハ
其ノ所有者ノ望ニ因リ清国税關官吏ニ於テ現金ヲ以テ之ヲ償辨スルヲ得ヘキモノトス

第十四條

清国政府ハ其ノ諸開港地ニ於テ官設倉庫ヲ設クルコトニ同意ス本件關スル規則ハ

進ヲ之ヲ設クヘシ

第十五條

日本國商船ニシテ噸數百五十噸以上ノハ清國ノ開港ニ入航スルニ當リ其ノ登
記噸數壹噸ニ付清銀四錢ノ割ヲ以テ噸稅ヲ課セラルヘシ噸數百五十噸及其
ノ以下ノモノハ登記噸數壹噸ニ付壹錢ノ割トシ然レトモ右船舶ニシテ其ノ積荷實
動ヲ入港後四十八時間以内ニ出港スルモノハ噸稅ヲ免除セラルヘシ

日本國船舶前記ノ噸稅ヲ納メタルハ該稅ヲ納メタル港口出航ノ日ヨリ向テ四箇月
間ハ清國ノ何レノ開港或ハ其ノ寄港ニ於テ噸稅ヲ免除セラルヘシ但シ日本國ノ船
舶ハ清國ニ於テ現ニ修繕ヲ知ヘ居ル間ハ噸稅ヲ納ムルヲ要セス

清國ノ何レノ開港間ニ於テ旅客、手荷物、書柬、無稅品運搬ノ為メ日本國臣
民ノ使用スル小船及艇隻ハ噸稅ヲ納ムルヲナカルヘシ尤モ其ノ運搬ノ時ニ當リ稅金
ヲ課セズルハキ商品ヲ運搬スル所ノ小船及荷舟ハ總テ壹噸ニ付壹錢ノ割ヲ以テ
四箇月毎ニ一回噸稅ヲ納ムヘシ

日本國船舶及艇隻ニ對シテハ噸稅ノ外別ニ手殺料或ハ賦金ヲ課スルヲナカル
ヘシ但シ日本國船舶及艇隻ハ最惠國ノ船舶及艇隻ノ噸稅ニ異ナルク又ハ之ヲ
リ多額ノ噸稅ヲ納ムルヲナシト知ルヘシ

第十六條

清國ノ開港ニ來航スル日本國ノ商船ハ其ノ入港ノ際隨意ニ水先案内者ヲ雇
入ルルコトヲ得該商船總テ正當ノ諸稅皆納メ上出港セムトスル時ハ出港ノ際ニ
モ亦水先案内者ヲ使用スルコトヲ得

第十七條

日本國ノ商船破損又ハ其他ノ理由ヲ以テ避難所ヲ要スルノ止ムヲ得サルニ至リタル
トキハ最寄ノ何レノ清國港口ニテ又入港スルコトヲ得尤モ其ノ船舶ノ修繕ヲ速ク爲
メ陸揚シタル物品ニ對シテハ諸稅若ハ噸稅ヲ拂フコトナカルヘシ

但シ該物品ノ稅關吏ノ監督ニ屬スルモノトス右等ノ船舶清國沿岸ニ於テ淺瀬ニ
乗揚ケ又ハ難破ニシタルトスハ清國官吏ハ直ニ其ノ旅客及乗組員ヲ救助シ該船

船に其積荷ヲ安全ナラシムルノ措置ヲ施スヘシ而シテ救助シタル人々ニハ慰勞ヲ待
遇ヲ與ヘ必要ノ場合ニハ最寄ノ領事館ニテ送届クヘシ

清國ノ商船破損又ハ其ノ他ノ理由ヲ以テ最寄ノ日本港口ニ避難所ヲ要スルノ時
得ラルニ至リタルトキハ該船船ハ日本官吏ヨリ同一ノ待遇ヲ享有スヘシ

第十八條

諸開港地ニ於ケル清國官吏ハ詳傷又ハ密商ノ為メ收入ニ減少ヲ來タカサル様
其ノ必要ナリト認ルル措置ヲ施スヘシ

第十九條

日本國ノ船舶清國ノ強盜又ハ海賊ノ掠奪ニ遇トキハ該強盜海賊ヲ速
捕處罰シ其ノ贓品ヲ取戻シ之ヲ其ノ持主ニ還付スルヲ務ムルハ清國官吏ノ
職務タルヘシ

第二十條

清國ニ在ル日本國臣民ノ自體財產ニ關スル裁判管轄權ハ當該日本國官吏

ニ專ラス日本國臣民或ハ一切ノ他國臣民又ハ人民ヨリ日本國臣民ニ其財產
ニ係ル訴訟ハ總テ清國官吏ノ干渉ヲ受フルトナラ右官吏ニ於テ審理判決ス
ヘシ

第二十一條

清國官吏又ハ臣民ク清國ニ在ル日本國臣民ニ對シ又ハ其ノ財產ニ關シ民事訴
訟ヲ起ストキハ日本國官吏ニ於テ之ヲ審理判決スヘシ

清國臣民ニ對シ又ハ其ノ財產ニ關シ清國ニ在ル日本國官吏或ハ臣民ヨリ起ス所ノ
民事訴訟ハ總テ清國官吏ニ於テ之ヲ審理判決スヘシ

第二十二條

清國ニ於テ犯罪ノ被告トナリタル日本國臣民ハ日本國ノ法律ニ依リ日本國官吏之
ヲ審理シ其ノ有罪ト認メタルトキハ之ヲ處罰スヘシ

清國ニ在ル日本國臣民ニ對シ犯罪ノ被告トナリタル清國臣民ハ清國ノ法律ニ依リ

清國官吏之ヲ審理シ其ノ有罪ト認メタルトキハ之ヲ處罰スヘシ

第三三條

清国臣民カ日本国臣民ニ對シテ負債ヲ償辦セズ又ハ詐偽逃亡スルハ清国官吏
之ヲ逮捕シ其ノ負債ヲ償還セシムルニテ務ムヘシ日本国官吏ニ於テハ日本国臣民カ
清国臣民ニ對シテ詐偽逃亡シ又ハ其ノ負債ヲ償辦セザルモハ處分スルコトヲ務
ムヘシ

第三十四條

清国ニ在ル日本人ニシテ罪ヲ犯シ又ハ負債ヲ償辦セズ又ハ詐偽逃亡シタル者清
国内地ニ適シ清国臣民ノ住居ニ於テ清国船舶中ニ潜伏スルルハ清国官吏
ハ日本国領事ヨリ請求次第日本国官吏ニ之ヲ引渡スヘシ

又清国ニ在ル清国人ニシテ罪ヲ犯シ又ハ負債ヲ償辦セズシテ詐偽逃亡シタル
者清国ニ在ル日本国臣民ノ住居ニ於テ清国領海ニ於ケル日本国船舶中ニ潜伏
スルトハ清国官吏ヨリ日本国官吏ヘ請求次第之ヲ引渡スヘシ

第三五條

日本国政府及臣民ハ其ノ現在效力ヲ有スル日清間條約諸條款ニ據リ得タ
ル一切ノ特權免除及利益ヲ享有スルコトヲ更ニ茲ニ確定ス
且日本国ノ政府及臣民ハ大清国皇帝陛下ヨリ他国ノ政府又ハ臣民ニ現ニ附與シ
又ハ將來附與スヘキ一切ノ特權免除及利益ヲ享有スヘキコトヲ特ニ茲ニ規定ス

第三六條

締盟国ノ一方ハ本條約批准交換ノ日ヨリ十箇年ノ終ニ於テ税目及本條約ノ通
商ニ關スル條款ノ改正ヲ要求スルコトヲ得然レトモ若シ最初十箇年ノ終ヨリ起算
シ六箇月以内ニ締盟国ノ何レヨリモ右要求ヲ爲サズ改正ヲ行ハサルトモハ本條
約並ニ税目ハ前十箇年ノ終ヨリ起算シ更ニ十箇年間其ノ儘效力ヲ有スヘシ
而シテ其ノ後各十箇年ノ終ニ於ケルモ亦同様タルヘシ

第三七條

締盟国ハ本條約ノ效力ヲ完全ナラシムルニ必要ナル章程ヲ協議決定スヘシ尤モ
右章程ノ実施セラルルニ至ル迄ハ現ニ清国ト泰西諸国ト間ニ存スル取極及章

程ニシテ其ノ本條約ノ規定ニテ自セテ適用セラレ得ル限ハ締盟国ニ於テ之ヲ遵守スヘキモノトス

第三八條

本條約ハ日本文漢文及英文ニ調印スヘシ然レトモ將來議論ヲ防ク為メ締盟国ノ全權大臣ハ日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釈ヲ異ニシタルトキハ其ノ異ナル莫ハ英文本文ニ依テ之ヲ決裁スヘキコトヲ協議決定セリ

第三九條

本條約ハ大日本国皇帝陛下及大清国皇帝陛下ニ於テ之ヲ批准セラルル而シテ其ノ批准書ハ本條約調印ノ日ヨリ三箇月以内ニ可成速ニ北京ニ於テ之ヲ交換スヘシ

右證據トシテ兩國ノ全權大臣本條約ニ託名調印スルモノナリ

明治三十九年七月二十日 即光緒二十三年六月十一日 北京ニ於テ作ル

顧維鈞

王寵惠

アー、サロー

ジュスラン

カレル、シアンツエル

ヴィー、コランデイ、リッパ

ルイジ、アルベルティニ

加藤 友三郎

幣原 喜重郎

埴原 正直

ベラーレル、グアン、ブロックランド

ダブリュー、ド、ボーフォール

アルテ

エルネスト、デ、グアスコンセロス

議定書

明治二十九年十月十九日北京ニ於テ調印(日、支文)
同 年十月十日 官報掲載

大日本国特命全權公使 正四位勳一等男爵林董ハ大清欽命總理各國事務王
大臣ト左ノ四箇條ヲ議定ス

第一條

新開通商市港場一日本專有ノ居留地ヲ置クコトヲ定メ道路管轄及地方
警察ノ權ハ日本領事ニ專任スルモノトス

第二條

光緒二十二年八月初三日上海稅關ヨリ發布セシ洋商ヲ對杭滬ニ處通商試辦章程
内其ノ汽船及傭人又ハ所有ノ船隻ノ関スル事ハ日本ト妥商シテ定ムヘシ之ヲ商定ス
ル道ハ適用ニ得ヘク限ハ長江章程ヲ施行スルモノトス

第三條

日本政府ハ清国政府ハ清国ニ於テ日本臣民ノ製造品物品ニ對シ便宜酌量シテ

課税ヲナシトシ允スヘシ但シ其稅ハ清國臣民カ納ムヘキ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ヲ
ルコトヲ得ス」清國政府ハ日本政府ヨリ請求ノ上ハ早速上海天津厦門漢口等
處ニ日本專有ノ居留地ヲ設クルトシ允スヘシ

第四條

條約ニ依リ凡ソ日本國軍隊占領地ノ經界線ヲ距ルト日本里數五里此清國里數
六約四十里地内ニハ清國軍隊ノ之ニ近ツキ若ハ之ヲ占領スルヲ許スヘカサル
ニテ山東巡撫ニ電達スヘシ

右日本文及漢文各ニ通ヲ作り対照シテ記名調印シ雙方其各一通ヲ執ラ
證據トス

明治二十九年十月十九日

追加通商航海條約

明治三十六年十月八日上海ニ於テ調印(英日支文)
同 年 十二月九日 批
明治三十七年一月十日 北京ニ於テ交換
同 年 同月十九日 公 布

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ明治三十四年九月七日即光緒三十年
七月二十五日北京ニ於テ調印セラレタル最終議定書第十一條ノ規定ニ充分
ノ效力ヲ與ヘムカ爲メ日清兩國間ノ通商關係ヲ簡易ニシ且増進セシムル目
的トシタル追加通商航海條約ヲ締結スルトニ決シ之カ爲メ大日本國皇帝陛下
ハ公使館一等書記官健五位勲五等日置益總領事兵伍勲五等小田切萬壽之
助ヲ大清國皇帝陛下ハ工部尚書呂海寰太子少保前工部左侍郎益宣懷商
部左侍郎伍廷芳ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ
全任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協議決定セリ

第一條

清國ハ其財政制度ヲ改正スル目的ヲ有シ而シテ釐金制度ノ全廢ニ依リテ生

又キ缺損一部ヲ填補スル為メ海關又ハ内地及国境ノ税關ヲ通過スル各種貨物ニ對シ關稅ノ外ニ附加稅ヲ徵收スルコトヲ提議シタルヲ以テ日本國ハ清國ノ各條約國ト協議ノニ決定スルモノト同意ノ附加稅ヲ支拂フコトヲ承諾ス清國ノ徵收スル生産稅消費稅棧橋製造品稅又内國產鴉片及鹽ノ稅ニ關シ日本國ハ各條約國ノ清國ト協議決定スヘキ同一ノ取極ニ依ルコトヲ承諾ス但シ本條ノ為メ日本國ノ貿易權利及特權ハ他國ノ貿易權利及特權ニ比シ何等不利利益ノ地位ニ置カルコトナカルヘキコト論ケルヘシ

第二條

清國政府ハ日本國汽船所有者ヨリ自己ノ費用ヲ以テ揚子江宜昌重慶間ノ急流克上セシメ為メ設備ヲ為スコトヲ承諾ス然レトモ右ハ四川湖南湖北各省人ハノ利害ニ關スル處アルヲ以テ其ノ設置前清國海關ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

右設備ハ汽船及清國形船舶共ニ之ヲ使用スルコトヲ得ヘキモノニシテ水路又ハ

清國形船舶ノ自由航行者ハ沿岸道路人民ノ交通ヲ妨ケルコトヲ得ヌ右設備ニ關シテ清國海關ニ於テ制定スヘキ特別規則ニ從フヘシ

第三條

清國政府ハ内河航行ニ適スル各種ノ日本國汽船ヲ清國海關ニ届出テノ上内地水路汽船航通規則及同追加規則ニ依リ貿易ノ目的ヲ以テ清國開港場ヨリ其ノ届出テタル内地ニ航行スルコトヲ承諾ス

第四條

清國臣民ニシテ日本國臣民ト共同シテ正當ナル目的ヲ以テ組合又ハ會社ヲ組織スル場合ハ契約又ハ公證書並定款及右ニ基キ作リタル細則ニ據リ右組合及會社ノ各員ト共公平ノ損益ヲ分ツモノトス又右清國臣民ハ自ら承認シ且日本國裁判所ノ所屬ニ從フヘキ該契約又ハ公證書並定款及右ニ基キ作リタル細則ヲ定メタル義務ヲ履行スヘキモノトス若清國臣民ニシテ斯ク定メタル處ノ義務ヲ履行セサルカ爲メ訴訟ヲ提起スルレタルモノハ清國

裁判所ハ直チニ右義務ノ履行ヲ強制スヘシ

日本國臣民ニシテ清國臣民ト共同シテ組合又ハ會社ヲ組織スル場合ニ契
約又ハ覺書並定款若ハ之ニ基キ作リタル細則ニ據リ公平ニ損益ヲ分クヘシ
若日本國臣民ノ契約又ハ覺書並定款若ハ之ニ基キ作リタル細則ニ定メ
タル處ノ義務ヲ履行セサルトハ日本國裁判所ニ亦右同様直チニ義務
ノ履行ヲ強制スルコト勿論タルヘシ

第五條

清國政府ハ清國臣民カ日本國臣民ノ有ル登録商標ヲ侵害スルヲ
禁遏スル為メ必要ナル規則ヲ設ケ且該實ニ之ヲ執行スヘキコトヲ約ス
清國政府ハ又清國語ヲ以テ編製シ且新ニ清國人ノ使用ニ供スル為メ作製
セラルル書籍冊子地圖及海圖ニ關シ日本國臣民ノ有ル登録商標版權
ヲ保護スル為メ必要ナル規則ヲ制定スヘキコトヲ約ス

清國政府ハ登録局ヲ設置シ商標及版權保護ヲ為メ今後同國政府ニ

於テ制定スヘキ規則ノ定ル所ニ從ヒ其保護ヲ求ムル外國商標及版權ノ
登録ヲ為スヘシ

日本國法律規則ノ定ル所ニ從ヒ正當ニ登録セラレタル清國商標及版權ハ日本
國ニ於ケル侵害ニ對シ同様ノ保護ヲ受クルコト勿論タルヘシ

本條ハ清國ノ安寧ヲ害セトスル公刊物ノ著作者、所有主若ハ販賣人タル
日本國臣民又ハ清國臣民ヲ法律ノ正當ナル進行ニ對シ庇護スルコト解スヘ
カラス

第六條

清國政府ハ成ルヘク速ニ自ラ進テ全國一定ノ貨幣制度ヲ創設シ全國一
定ノ流通貨幣ヲ設備スヘキコトヲ約ス右流通貨幣ハ清國內ニ於テ日清
兩國臣民均シク法貨トシテ自由ニ一切ノ租税、賦課及其他ノ債務ノ辨済
ニ使用スルコトヲ得ヘシ但シ關稅ハ海關所ヲ基礎トシ計算シテ支拂コト
勿論タルヘシ

第七條

清国各省ニ於テ商業者及一般人民カ普通及商業ノ為メニ使用スル度量
 衡ハ区々一定セズ且政府ノ定メタル本位ニ違ヒ清国及外國商人ノ貿易ニ障礙
 アリ是ヲ以テ清国各省ノ總督巡撫ハ其時ノ狀況ヲ詳查シ會同協議シ
 テ一定ノ本位ヲ商定シ上奏ノ上之ヲ採用シ全國官民ノ一切取引ニ使用セシメ
 先ツ開市場ヨリ實施シ漸次内地ニ及ホスヘキコトヲ約ス若新定ノ度量衡
 ト現行ノ度量衡トノ間ニ差異アル時ハ其ノ差異ノ額ニ應ジ増減ノ上公平ニ
 算定スヘシ

第八條

光緒二十四年五月ノ内地水路汽船航通規則及同年七月ノ追加規則ハ實
 行上不便ノ箇處アルヲ以テ清国政府ハ之ニ修正ヲ加ヘ本條約ニ右新規則
 ヲ添付スヘキコトヲ約ス此等ノ規則ハ相互ノ同意ニ依リ更改セラルルマデハ
 其ノ效力ヲ有スルモノトス

第九條

日清兩國間ニ現ニ存在スル凡テノ條約及約定ノ規定ハ本條約ニ依テ改正
 又ハ廢止セラレサル限り茲ニ其ノ效力ヲ確認ス又日本国ノ政府官吏臣民通商
 航海運漕工業及一切ノ財産ハ大清国皇帝陛下又ハ清国政府又ハ清国諸
 省若ハ地方官衙ヨリ他国ノ政府官吏臣民通商航海運漕工業又ハ財産
 ニ既ニ附與セラレタル將來附與セラルヘキ一切ノ特權免除及利益ヲ自由且完全ニ
 享受スヘキコトヲ明ニ茲ニ規定ス

第十條

日本国政府ハ日本国ニ在ル清国官吏及臣民ニ對シ帝國法律規則ノ許ス限
 リ成ルヘク優遇ヲ與フルコトヲ努ムヘシ

向締盟國公使蘇省ニ駐在スル外國軍隊及公使館護衛兵ノ總テ撤退シタ
 ル場合ニ於テ清国ハ直ニ自ラ進テ外國人ノ居住及貿易ノ為メ北京市内ノ一地區
 ヲ關クニ此ニ關スル規則ハ其ノ時ニ於テ雙方協議ノ上決定スヘキコトヲ約ス

清国政府ハ本條約批准交換ノ日ヨリ六箇月以内ニ既ニ外國貿易ニ開カレラ
ル港市ト同一ノ條件ヲ以テ湖南省長沙府ヲ外國貿易ノ為メニ開クルヘキコ
トヲ約ス同開港場在留外人ハ清国居住民ト同シク地方及警察規則ヲ
遵守スヘク清国官廳ノ承諾ヲ得ルニ非サルハ該條約港区域内ニ自己ノ地
方役場又ハ警察ヲ設置スルコトヲ得ス

清国政府ハ本條約批准交換後直ニ各個人ノ居住及貿易ノ為メ自ラ進
テ益京省奉天村及同省大東溝ヲ開クヘキコトヲ約ス外國人ノ使用ニ供ス
ル為メニ適當ナル地域ノ撰取並外國人ノ居住及貿易ノ為メ定メラルル場
所ノ規則ハ日清兩國政府協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第十一條

清国政府ハ其司法制度ヲ改正シテ日本国及西洋各國ノ制度ニ適合セ
シムルコトヲ熱望スルヲ以テ日本国ハ右改正ニ對シ一切ノ援助ヲ與フヘキコトヲ
約シ且清国法律ノ狀態其施行ノ設備及其他ノ要件ニシテ日本国力

満足ヲ表ストキハ其治外法權ヲ撤去スルニ躊躇セサルヘシ

第十二條

本條約ハ日本文漢文及英文ニテ調印スヘシ然レトモ將來ノ紛議ヲ避ケル
為メ兩締盟国全權委員ハ日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釈ノ相違ア
ル場合ニ其ノ相違ノ點ハ英文本文ニ照シテ之ヲ決定スヘキコトヲ約ス

第十三條

本條約ハ大日本国皇帝陛下及大清国皇帝陛下之ヲ批准セラルヘク而シテ其
ノ批准書ハ本日ヨリ六箇月以内ニ成ルヘク速ニ北京ニ於テ交換スヘシ
右證據トシテ同国全權委員ハ本條約ニ署名調印スルモノナリ

明治三十六年十月八日印

光緒二十九年八月十日上海ニ於テ之ヲ作ル

大日本国條約改訂委員 日 置

小田切 萬壽之助

大清国條約改訂委員

呂 海 寰
盛 宣 懷
伍 廷 芳

大連海關設置及内水汽船航行ニ関スル協定

明治四年 五月三十日 北京ニ於テ調印
同 年 六月十一日 告 示

日本国及清国政府ハ大連ニ清国海關ヲ設置スル事ヲ協定シタルヲ以テ下名
ハ各本国政府ヨリ相當ノ条件ヲ受テ茲ニ同海關ノ一般指導ヲ為シ豫備
及暫定ノ處置トシテ本書ニ添附スル左記ノ文書ニ開陳セル細項取極ヲ承
認スル事ヲ約ス

(甲) 大連海關設置ニ関スル協定

(乙) 内水汽船航行ニ関スル協定

本取極ハ一季間試ム之ヲ實施シタル上明春ニ至リ更ニ善ク土地ノ状況及必
要ニ應ゼシムル為再考ヲ加ヘ茲ニ承認スル文書ニ代フルニ修正取極及命令
ヲ以テスヘキ事ヲ約ス該修正取極ハ日本国公使ト總務司ト上於テ之ヲ作
成シ命令ハ組借地ノ日本国官憲ニ於テ大連海關長ト協議シ之ヲ作成ス

ヘキモトス又日本国官憲ハ租借地ヨリ清国ヘノ密輸入ヲ防遏スル處置ヲ採リ且清国官憲ヲ清国ヨリ租借地ニ密輸入ヲ妨ク爲ニ採ル所ノ處置ニ就テ之ヲ援助スルク又大連ノ鐵道終点及境界地停車場(瓦房店又ハ其ノ他)ニ於テ鐵道運輸ヲ處理スル爲相當手續ヲ定メ且海關ノ徵稅ノ爲仮規則ヲ設クヘキモトス

日本国特命全權公使 林 權助
清国總稅務司 サム、ロバート、ハート

一九〇七年五月二十日北京ニ於テ署名調印ス

(甲) 大連海關設置ニ關スル協定

- (一) 大連海關長、日本ノ国籍ヲ有ス者タルヘシ該海關長新任ノ場合ニハ總稅務司ハ在北京日本国公使館ト協商ヲ遂クヘシ
- (二) 大連海關ノ職員ハ通則トシテ日本ノ国籍ヲ有スルモノタルヘシ但シ俄ノ職員ヲ生スルカ若ハ臨時必要ナル場合ニハ俄ノ他ノ国籍ニ屬スル職

員ヲ大連ニ派遣スルコトヲ得

- (三) 大連海關長ノ更迭ハ豫メ總稅務司ヨリ關東都督ニ通告スヘシ

(四) 大連海關ト日本国官憲及日本国商人トノ往復ハ總テ日本文ヲ以テス

但シ大連ニ來住スル他ノ国籍所屬ノ商人ハ英文若ハ清国文ヲ以テ通信スルモ妨ナシ

(五) 海路大連ニ輸入スル商品ニハ輸入稅ヲ課セス日本国租借地境界ヲ越テ清国内地ニ至ル各種ノ商品及產物ハ海關ニ於テ現行條約ニ從ヒ輸入稅ヲ課スヘシ日本官憲ハ海關ノ許可證又ハ通關證ヲ有セザル商品ノ日本国租借地境界通過ヲ防遏スルニ就キ成ルヘク援助ヲ與フル爲適當ノ處置ヲ採ルコトヲ承諾ス

(六) 清国内地ヨリ日本国租借地ニ來リタル清国商品及產物ニシテ大連ヨリ

他所へ船積セラルトキハ現行條約ニ依り輸出税ヲ納ムヘシ日本国租借地ノ產物又該產物ヨリ製造セル商品若ハ海路同租借地へ輸入セル商品若ハ輸出税ヲ納ムルヲ要セス日本国租借地内ニ於テ清国内地ヨリ来ル原料ヲ以テ製造シタル物品ニ對シテ納ムヘキ税ハ膠州灣ニ於ケル特逸国租借地ニ於テ同事情ノ物品ニ對シ現ニ納ムルモノト同一ナルヘシ

(七) 清国ノ條約港ヨリ大連へ来ル清国商品若ハ產物ハ日本国租借地内ニ在リ納税ヲ要セスト雖モ右商品若ハ產物ニシテ日本国租借地境界ヲ越エ清国内地ニ入場合ニハ現行條約ニ從ヒ納税スヘシ

(八) 大連ヨリ船積セラレ隨テ輸出税ヲ納メタル清国商品ニハ領收證ヲ下付シ清国條約港ニ於テ陸揚ノ際右領收證ヲ差出シ現行條約ニ從ヒ沿岸貿易税ヲ納ムヘシ

(九) 日本国及其ノ他清国以外ノ商品ニシテ清国ノ條約港ヨリ大連へ船積セラレ場合ニハ該條約港ニ於テ納メタル輸入税ノ條約ノ規定ニ從ヒ拂戻ヲ受

クヘシ右商品ハ大連ニ輸入セラルルニ日本国租借地ノ境界ヲ越エ清国内地ニ入ラサル限り何等ノ納税ヲ要セス又右商品ニシテ大連ヨリ清国以外ノ地ニ再輸出セラルトキハ輸出税ヲ納ムルヲ要セス

(十) 清国ノ商品又ハ產物ニシテ清国條約港ヨリ大連ニ船積セラレ同所ヨリ更ニ清国以外ノ場所へ船積セラルルニ際シ右條約港ニ於ケル輸出税納入者ノ證據書類ヲ提出スルトキハ輸出税ヲ納ムルヲ要セス

(十一) 大連海關ハ噸税燈台税及港税ノ徵收者ハ管理ニ與ヒサルモノトス

(十二) 清国條約港ニ於ケル現行関稅率ハ大連海關ニ於テモ均シク之ヲ適用スヘシ

(十三) 日本国政府ハ大連ニ於テ該海關ノ為其ノ事務所及職員宿舍建築用ニ供スル充分ノ地所(適當ノ庭園、厩址僕舎用共)ヲ備ヘ置クヘキトニ同意ス

右地所賣渡若ハ賃渡ノ金額ハ同地ニ於テ雙方合意ヲ以テ定ムヘキモノト

ス

(十四) 税関長及職員ハ陪審人若ハ陪席判事タリ又ハ其他何等體役ニ從事スルノ責任ナキモノトス

(十五) 前記大連海關ハ又大連ヨリ清国内地ニ輸出シ且同内地ヨリ大連ニ輸入スル商品ニ対シ通過免状ノ發給ヲ專掌ス且同海關ハ清國條約港ニ於テ謂テ清國海關道ニ於テ一切ノ職務、權利又ハ資格ヲ有スルモノトス

(十六) 第十五條ニ記載ノ通過免状ニ対シテハ現行條約ニ依ル稅率即チ輸出稅若ハ輸入稅ノ半額ヲ大連海關ニ於テ徵收スヘシ

(十七) 海關規則ニ対シ商人ノ行ヒタル詐偽又ハ他則ノ場合ニ於ケル處分手續ハ今後別約ヲ以テ之ヲ定ムヘシト雖モ大體ノ主義ニ於テ總テ司法上ノ手續ハ日本國法衙ニ屬スヘキモノトス

(十八) 日本國租借地ニ於ケル商業ノ發達ニ伴ヒ現ニ豫知スヘカラサル必要ノ生ズルモノアルヘキヲ慮リ本協定ハ暫定ニ屬スルモノトシ當事者雙方

ハ本協定實行上ニ生ズルコトアルヘキ不便ヲ除クカ爲必要アル毎ニ連ニ修正ヲ提議ス(キコトヲ約ス)
(乙) 内水汽船航行ニ關シ協定(略之)

關東州租借地稅關假規則

明治四十年六月二十六日
關東都督府令第三十八號
改正 明治四十年 第四號、第四四號、第五三號、
四三年 第二六號
大正三年 第二七號

關東州租借地稅關假規則左ノ通り相定ル
本令ハ明治四十年七月ヨリ之ヲ施行ス

關東州租借地稅關假規則

第一條 外國ヨリ輸入セル外國貨物又ハ外國ヨリ輸入セル外國貨物ヲ以テ製
造シタル物品ヲ内地ニ輸送セントスルトキハ輸入稅ヲ納付ス(シ)

清國通商港ヨリ移入セル外國貨物ヲ内地ニ輸送セントスルトキハ納稅者
証ヲ所持セサルモハ輸入稅ヲ納付ス(シ)

清國通商港ヨリ輸入セル外國貨物ニシテ租借地内ニ於テ消費セラレタル
トキ若ハ租借地ヨリ再輸出セラレタルトキハ納稅地ノ稅關ニ請求シ稅

釐ノ拂戻ヲ受ルルヲ得 但シ仕出港税關ノ發行ニ係ル納稅清証ヲ
所持スル場合ニ限ル

第三條 清國通商國ヨリ輸入セル清國貨物ヲ内地ニ輸送セントスルトキ納
稅清証ヲ所持スルモノハ沿岸貿易稅ヲ納付スヘシ

第二條 租借地ノ生産物又ハ租借地ノ生産物ヲ以テ製造シタル物品ヲ
内地ニ輸送セントスルトキハ輸入稅ヲ納付スヘシ

第三條 清國通商國ヨリ清國貨物ヲ輸入セルトキ納稅清証ヲ所持
セサルハ輸入稅金ニ相當スル金額ヲ税關ニ供託スヘシ 若シ不行
爲アリタルトキハ貨物並供託金ヲ沒收スルトアルヘシ

第四條 陸路租借地ニ輸入セルタル清國貨物ヲ輸出セントスルトキハ
輸出稅ヲ納付スヘシ

第五條 租借地ノ生産物及租借地ノ生産物若ハ外國ヨリ輸入セル材料
ヲ以テ製造シタル物品ヲ輸出セントスルトキハ輸出稅ヲ納付スルニ及ハス 但

シ日本官憲ノ發行ニ係ル產地證明書ヲ所持スル場合ニ限ル

第六條 内地及海路清國港ヨリ輸入セル材料ヲ以テ製造シタル物品ヲ輸
出セントスルトキハ輸出者ノ履狀ニ依リ材料若ハ製造品ニ對シ輸出稅ヲ納

付スヘシ

第七條 清國通商港ニ於テ輸入稅ヲ納付シタル外國貨物若ハ輸出稅ヲ
納付シタル清國貨物ヲ大連ヨリ再輸出セントスルトキハ輸出稅ヲ納付スルニ

及ハス

第八條 内地ヨリ又ハ内地ニ向テ内地通過規則ニ依リ貨物ヲ輸送セントスルトキ
ハ輸出稅又ハ輸入稅ノ外ニ通過稅ヲ納付スヘシ

第九條 海路又ハ陸路ヨリ租借地内ニ阿片ヲ輸入セントスルトキハ直ニ税關
ニ届出ツヘシ

第十條 阿片ヲ内地ニ輸送セントスルトキハ輸入稅並ニ釐金ヲ納付スヘシ 但
シ清國通商港ヨリ輸入セル外國又ハ清國阿片ニシテ納稅清証ヲ

所持スルキ若ハ戸部証票ノ貼付アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 阿片ヲ内地ニ輸送セントスルトキハ税金ノ有無ヲ問ハズ税関ニ申請シ証票ノ貼付並 関印ノ押捺ヲ受ク(シ)

第十八條 内地ニ清国通商港ヨリ清国阿片ヲ輸入セントスルトキ納税納税ヲ所持セサルモノハ統稅ヲ納付ス(シ)輸入阿片ニ戸部証票ノ貼付

アラサルトキ亦同シ

第十九條 武器、彈藥、爆発物及其製造材料ヲ輸入セントスルトキハ税関ノ許可ヲ得ル後ニ非レバ船舶又ハ陸揚ヲ為スルコトヲ得ス

第二十條 武器、彈藥、爆発物及其製造材料ハ清国領内ニ發行シ係ル護照ヲ所持スル者ニ非レバ之ヲ内地ニ輸送シ若シ清国港ニ輸出スルコトヲ得ス

第二十一條 前二條ノ規定ハ日本陸海軍又ハ警察ノ用ニ使スル武器、彈藥其他ニ之ヲ適用セス

第二十二條 船舶入港シタルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ遅滞ナク船舶証書又ハ領事報告書並輸入積荷目録ヲ税関ニ提出ス(シ)輸入積荷目録ニ船舶ノ名稱、国籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記号、番号、箇數、數量、噸量及荷受人ヲ記載シ船長又ハ其ノ代理者之ニ署名ス(シ)内地仕向ノ積載貨物ノ數量并貨物トシテ取扱フニ足ルモノアルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ内地行及租借地行ヲ区分シ各積荷目録ヲ調製ス

ハシ

積荷目録ハ其ノ提出後二十四時間以内ニ限リ訂正、補正スルコトヲ得

第二十三條 輸入貨物ノ荷受人ハ其ノ貨物ノ内地行アルト租借地行アルトク問ハズ船舶ノ名稱、国籍、貨物ノ仕出地、産出地又ハ製造地、記号番号、品名、箇數、數量及價格ヲ記載シタル報告書ヲ税関ニ提出ス(シ)

第二十四條 船舶出港セントスルトキハ船長又ハ其ノ代理者ハ輸出積荷目録ヲ作製シ出港許可申請前少クモ二時間ニ至リテ税関ニ提出ス(シ)輸出

積荷目録ニ記載ス(キ事項ハ輸入積荷目録ノ記載事項ニ同シ
輸出積荷目録ハ船長又ハ其ハ代理者之ニ署名ス(シ

第十九條 貨物ヲ輸出セトスル者ハ輸出申告書ヲ税関ニ提出シ貨物ノ
検査ヲ受ク(シ

貨物ノ検査終了シタルトキハ申告書ハ税関ノ交付シ税関税納入告知書
ニ記載セル税金ヲ税関指定ノ銀行ニ納付シ其ノ領收証ヲ税関ニ提
出シ船積許可書ノ交付ノ受ク(シ

第二十條 出港許可書ハ一切ノ税金ヲ完納シタル後ニ非サレハ之ヲ發行セズ
第二條 船積許可書ノ交付ヲ受ケタル其ノ貨物ヲ船積スルト能ハサルト

キハ滞滯ナク税関ニ届ケテ船積停止通知書ノ交付ヲ受ク(シ

第二條 或ル船舶ヨリ他ノ船舶ニ貨物ノ船積シテ爲サントスルトキハ税関ノ
許可ヲ受ク(シ若シ許可ヲ得ズシテ船積ヲ爲シタルトキハ其ノ貨物ヲ没收シ
船長ヲ罰金ニ處スルコトアル(シ

貨物船積ハ積荷目録ニ符合シ具ノ原包装ノ儘ニ非サレハ之ヲ爲ストコトヲ得ズ

第三條 税関ニ於テ適用スル税率左ノ如シ

一 輸入外國貨物ニ對シテ九百二年ノ改正輸入税率

ニ 輸入清國貨物ニ對シテ舊清國税率

シヤンクニ依リ輸出入スル貨物ニ對シテ特別税率ヲ適用スル場合ニハ別ニ之

ヲ告ス

第四條 税関長ノ罰金又ハ没收ノ處分ニ對シ不服ヲ申出ル者アルトキハ

千八百九十年五月三十一日北京ニ於テ協定セラルル罰金及沒收罰金ニ

合當規則ノ精神ニ基テ處理スルコトス

第五條 税関執務時間ハ日曜日及祭日ヲ除キ午前九時ヨリ午後四時迄ト

ス但シ貨物ノ検査場ハ午前八時ヨリ午後四時迄トス

第六條 午前六時前午後六時後若ハ日曜日及祭日ハ税関長ノ新許

ヲ受クルニ非ラズハ貨物ノ積卸ヲ爲ストコトヲ得ズ

但シ旅客ノ荷物及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス
特許午敷料在知シ

午前六時前	海關商	十兩
午後六時ヨリ 午後七時迄	同	十兩
午後六時ヨリ 翌日午前六時迄	同	二十兩
日曜日(終日)	同	四十兩
日曜日(半日)	同	三十兩
祭日(終日)	同	四十兩
祭日(半日)	同	二十兩

第三六條ノ一 大連税関ニ納付スルモノハ海關商ノ控算票ハ牛ノ相場ニ依ル之

ヲ定ム

第三七條 税関事務ニ関スル照會通信ハ總テ税関長ニ提出スルシ

附 則

第三八條 此規則ニ於テ内地ト稱スルハ租借地境界外ノ清國領ニ在ラス

支那、關稅ニ關スル條約

4九百22年正月六日華盛頓ニ於テ調印(更佛文)
4九百22年八月五日批准

亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ハ

支那國政府、歲入ヲ增加スルノ目的ヲ以テ支那關稅率ノ改訂及之ニ關スル事項ヲ條約ヲ締結スルニ決シ之カ爲左、如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

亞米利加合衆國大統領

4アールス、エヴァンス、ヒューズ

ヘンリー、カボット、ワッヂ

オズカー、ダグリュエー、アンクワッド

エリヒュー、ルート

カルキエド、マルシエンス

白耳義國皇帝陛下

大不列顛愛蘭聯合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

加奈陀

濠太利聯邦

新西蘭

南阿弗利加聯邦

印度

アーサー、ジューマス、バルフォア

リ、オヴ、フェアラム

カー、オークランド、キアンブル、ハグダス

サー、ロバート、レプト、ホーデン

ジョージ、フォスター、ビアス

サー、ジョン、ウリアム、サルモンド

アーサー、ジュームス、バルフォア

ヴァリグマン、サンカラナラヤナ、スリニワササネリ

支那共和国大統領

佛蘭西共和国大統領

伊太利国皇帝陛下

日本国皇帝陛下

施肇基
顧維鈞
王寵惠

アルベール、サロー

ジュール、ジ、ジュスラン

カルロ、シアンツェル

ヴァットリオ、ロラン、チ、リッ
ルイジ、アルベルチニ

加藤友三郎

和蘭國皇帝陛下

幣原喜重郎
植原 正直

葡萄牙共和国大統領

ヨシケール、フタエ、ベール、ルイ、ヴァン、デ、ロ、クラ、ド
ヨウヘール、ウィルム、ヘンドリック、ス、ド、ボ、ス、テ、ール

アルテ

五、ネ、ス、ト、ジ、リ、オ、デ、カ、ル、ウ、ア、リ、オ、イ、ウ、ア、ス、フ、セ、ス

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任状ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後在、如ク
協定セリ

第一條

締約国ノ代表者ハ支那国ト他国トノ間ニ締結セラレタル現存諸條約ニ基
キ支那關稅ノ現實價值五分ニ相當セシムル目的ヲ以テスル同關稅ノ改訂ニ

關シ決議ニシテ本條一附、附書トシテ添附スルモノヲ一九百二十三年十月四日華
盛頓市ニ於テ採用シタルニ因リ締約国ハ茲ニ右決議ヲ確認シ該改訂ノ
結果トシテ決定セラルル稅率ヲ受諾スルコトヲ約ス前記改訂稅率ハ其ノ公
表ノ時ヨリ二月後ニ於テ成ルヘク速ニ之ヲ實施スヘシ

附屬書

本會議ニ参加スル亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西
國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ハ支那國政府ノ所望ニ應
ズル爲歲入ヲ増加スル目的ヲ以テ左、如ク約定ス

一九百十八年十月十九日上海ニ於テ關稅改訂委員會ノ採用シタル支那
輸入稅率表ハ支那國ヲ一方ノ當事國トスル諸通商條約規定ニカク
其ノ稅率ヲ現實五分ニ相當セシムル様直ニ改訂セラルヘシ

改訂委員會ハ前記改訂ヲ直ニ且前同改訂ノ一般方針ニ從ヒ實施スル
爲出來得ル限リ速ニ上海ニ於テ會合スヘシ

右委員会ハ前記諸国ノ代表者及本会議ニ参加スル諸国ニ依リ現ニ承認セラレタル政府ヲ有スル他ノ諸国ニシテ支那国トノ間ニ輸入及輸出ノ税率ニ付從價五分ヲ越エサルトテ規定スル條約ヲ有シ且該委員會ニ参加スルトテ希望スルモノノ代表者ヲ以テ之ヲ構成スヘシ

前記改訂ハ軍備制限並太平洋及極東問題ニ關スル會議ニ於テ本決議ヲ採用シタル日ヨリ四月内ニ完了スルノ目的ヲ以テ成ルヘク速ニ之ヲ進捗セシムヘシ

改訂税率ハ改訂委員會カ之ヲ公表シタル時ヨリ二月後ニ於テ成ルヘク速ニ之ヲ実施スヘシ

本會議ノ主催者タル合衆國政府ハ本會議ニ参加セサルモノノ千九百十八年ノ前記改訂ヲ参加シタル諸國ノ政府ニ對シ直ニ本決議ノ條項ヲ通告スヘキモノトス

第二條

大不列顛國及支那國間ノ千九百二十年九月五日ノ條約第八條、合衆國及支那國間ノ千九百三十三年十月八日ノ條約第四條及第五條並日本國及支那國間ノ千九百三十三年十月八日追加條約第一條ニ規定スル附加稅ヲ賦課スルノ目的ヲ以テ右諸條ニ規定スル釐金ノ廢止及他ノ條件ノ履行ニ付準備ヲ為スカ特別會議ニ依リ直ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

右特別會議ハ著名國ノ代表者及該會議ニ参加スルトテ希望スル他ノ諸國ニシテ之ニ其ノ代表者ヲ参加セシムルニ足ル時期ニ於テ本條約第八條ノ規定ニ從ヒ本條約ニ加入スルトアルヘキモノノ代表者ヲ以テ之ヲ構成スヘシ

右會議ハ本條約實施後三月内ニ支那ニ於テ之ヲ開催スルヲ其ノ時日及場所ハ支那國政府之ヲ指定スヘシ

第三條

第二條ニ規定スル特別會議ハ同條ニ記載スル諸條約ノ條項ニ規定スル釐金ノ廢止及他ノ條件ノ履行ニ先テ適用セラルルヘキ暫行規定ヲ考慮

スヘシ同會議ハ其ノ決定スヘキ期日、目的及條件ニ依リ有税輸入品ニ對シ附加税ヲ賦課スルコトヲ認ムヘシ

右附加税ハ之ヲ從價二分五厘ノ一律ノ率トス但シ特別會議ニ於テ過度ニ貿易ヲ阻礙スルコトナクシテ一層ノ増課ヲ負担シ得ルモノト認ムル或種ノ著傷品ニ付テハ其ノ總附加税ハ從價五分ヲ超エサル限リ之ヲ増加スルコトヲ得

第四條

第一條ニ記載スル支那輸入関税率表ノ即時改訂ノ後同関税ヲシテ第二條ノ規定ニ特別會議ノ定ムル從價税率ニ相當セシムヘキコトヲ確保スル爲更ニ其ノ再改訂ヲ行フヘク再改訂税率ハ前記即時改訂ノ完了後四年ヲ越テ之ヲ實施スヘシ

右再改訂ノ後ニ於テ前記ノ目的ノ爲支那輸入関税率表ヲ支那國ト現存諸條約ノ認ムル十年毎ノ定期改訂ニ代ヘ七年毎ニ定期ニ改訂

スヘシ

遷延ヲ避ケル爲本條ニ基キ行フヘキ改訂ハ第二條ニ規定スル特別會議ノ定ムヘキ規則ニ從ヒ之ヲ實施スヘシ

第五條

関税ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ一切ノ締約國ニ對シ待遇及機會ノ現實ノ均等アルヘシ

第六條

支那一切ノ陸境及海境ニ於テ賦課スル関税率ニ付テハ均一ノ原則ハ茲ニ承認セラレタルモノトス第二條ニ規定スル特別會議ハ右原則ヲ實行スルノ取極ヲ爲スヘシ同會議ハ撤廢セラルヘキ関税ノ特權力地方的經濟上ノ便益ニ代ヘテ許與セラレタルモノナルニ於テハ之ヲ公平ナル調整ヲ爲スコトヲ得

右實行ニ至ル迄ハ関税率改訂ノ結果トシテ生スヘキ関税率ノ増加又ハ

本條約ニ基キ将来賦課セラルルキ附加税ハ支那ノ一切ノ陸境及海境ニ於テ均一ノ從價税率ニ依リ徵收セラルヘシ

第七條

概代税ハ第二條ニ規定スル措置ノ實施セラルル迄ハ之ヲ從價二分五厘ノ率トス

第八條

本條約ニ署名セル諸国ニシテ署名国ニ依リ現ニ承認セラレタル政府ヲ有シ且一國同トシテ關税及輸入税率ニ付從價五分ヲ超セサルコトヲ規定スル現行條約ヲ有セルモノハ本條約ニ加入スルコトヲ招請セラルヘシ

合衆國政府ハ右目的ノ爲ニ要ナル通牒ヲ爲シ且其ノ受領シタル回答ヲ對同政府ニ通告スルコトヲ別國ノ加入ハ合衆國政府カ右加入ノ通告ヲ受領シテ附テ行ハリ生ヌヘシ

第九條

本條約ノ規定ハ支那國及各締約國間ノ條約ノ一切ノ規定ニシテ之ト抵觸スルモノ(最惠國民待遇ノ規定ヲ除ク)ニ優ル

第十條

本條約ハ締約國ニ依リ各自ノ憲法上ノ手續ニ從ヒ批准セラルヘク且批准書全部ノ寄託ノ日ヨリ實施セラルヘシ右ノ寄託ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ合衆國政府ハ批准書寄託ノ調書ノ認證膳本ヲ他ノ締約國ニ送付スヘシ

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ合衆國政府ノ記録ニ寄託保存セラルヘク其ノ認證膳本ハ同政府ヨリ他ノ締約國ニ之ヲ送付スヘシ

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名ス
一九〇二年二月六日華盛頓市ニ於テ之ヲ作成ス

チャールズ・エヴァンス・ヒューズ

（ンリー、カボット、ワッジ

オスカー、ダブリュー、アングラウド

エリヒュー、ルード

男爵カルキエド、マルシエンヌ

アーサー、ジエームス、バルフォア

リー、オヴ、フェアラム

エ、シー、ゲデス

アール、エル、ボージェン

ジー、エフ、ピアス

ジョン、ダブリュー、サルモンド

アーサー、ジエームス、バルフォア

グイー、エス、スリニヴァサ、カストリ

施肇基